

## 第4章 史跡上之國館跡の現状と課題の整理

### 第1節 花沢館跡の現状と課題

#### 1. 花沢館跡の概況

花沢館跡の概況は以下の通りである。

##### 【概況】

- ・指定面積：28,839.00 m<sup>2</sup>
- ・構造：頂上部の主郭と主郭北側斜面に7段の腰曲輪で構成され、15世紀中葉のきわめて短期間の詰城（砦）であり、大型の建物が建つような大きな平坦面は少ない。
- ・遺構：土塁・空堀（大手、搦手）、曲輪・切岸、柱穴、旧道跡、焼土層、柵列、腰曲輪・切岸
- ・遺物：陶磁器、金属製品（鉄製品・銅製品）、銅銭、石製品、骨角器
- ・整備状況：指定当時の現状がそのまま保存されており、標柱、説明板の設置以外の整備は行われていない。
- ・維持管理：主体部を中心に毎年約5,500 m<sup>2</sup>の草刈りを実施している。

#### 2. 過年度計画における花沢館跡の遺構整備方針等の概要

昭和53年（1978）に策定した『史跡上之國勝山館跡・花沢館跡保存管理計画書』では、勝山・花沢両館の史跡指定地の史跡地域整備構想として、以下の整備方針を明記している。

- ①主要部分（建物基礎部分等）は、事前に発掘調査を行う
- ②石積遺構、空塹等は、調査の上復元する
- ③館を構成する台地は、張芝、土壇で遺構を表現する
- ④館をとりまく沢や斜面は、必要最低限の伐木を行うほかは、原則現状維持とする
- ⑤古い道路は、調査により歴史性を明らかにし、歴史的な価値のあるものは復元をはかる

また、平成23年（2011）に策定した『国指定史跡 上之國館跡 花沢館跡 洲崎館跡 勝山館跡 保存管理計画』の、花沢館跡の整備と活用の方針では、虎口とされる城館の出入口や、館頂上部に至る全面の傾斜面でみられる複数の腰曲輪状の平坦面が未確認であるとして、以下を明記している。

- ①今後発掘調査を行った上で内容の確認を行う
- ②頂上部後方に見られる土塁や堀切などは、草刈りを実施して遺構の形状を視認できるよう整える
- ③頂上部から対岸に位置する洲崎館跡が見通せるよう樹木の選択的伐採を行い植生管理に努める
- ④整備にあたっては、花沢館跡から勝山館跡に連なる丘陵地帯と一体的な景観形成や自然環境の保全に配慮する

現状では、史跡指定当時の現状をそのまま保存しており、標柱、説明板を1基ずつ設置している。その他は、主体部の草刈りを毎年実施するのみとしている。

また、発掘調査実施箇所は、遺構保護として30～50 cm程度覆土している。

### 3. 花沢館跡の構成要素の現状と課題

第3章2節で整理した通り、花沢館跡の構成要素を「本質的価値を構成する諸要素」、「本質的価値を構成する諸要素に密接に関係する諸要素」、「保存・活用のために復元・設置した諸要素」、「その他の要素」の4つに区分とした。ここでは、4つに大別した諸要素の現状と課題について以下に整理する。

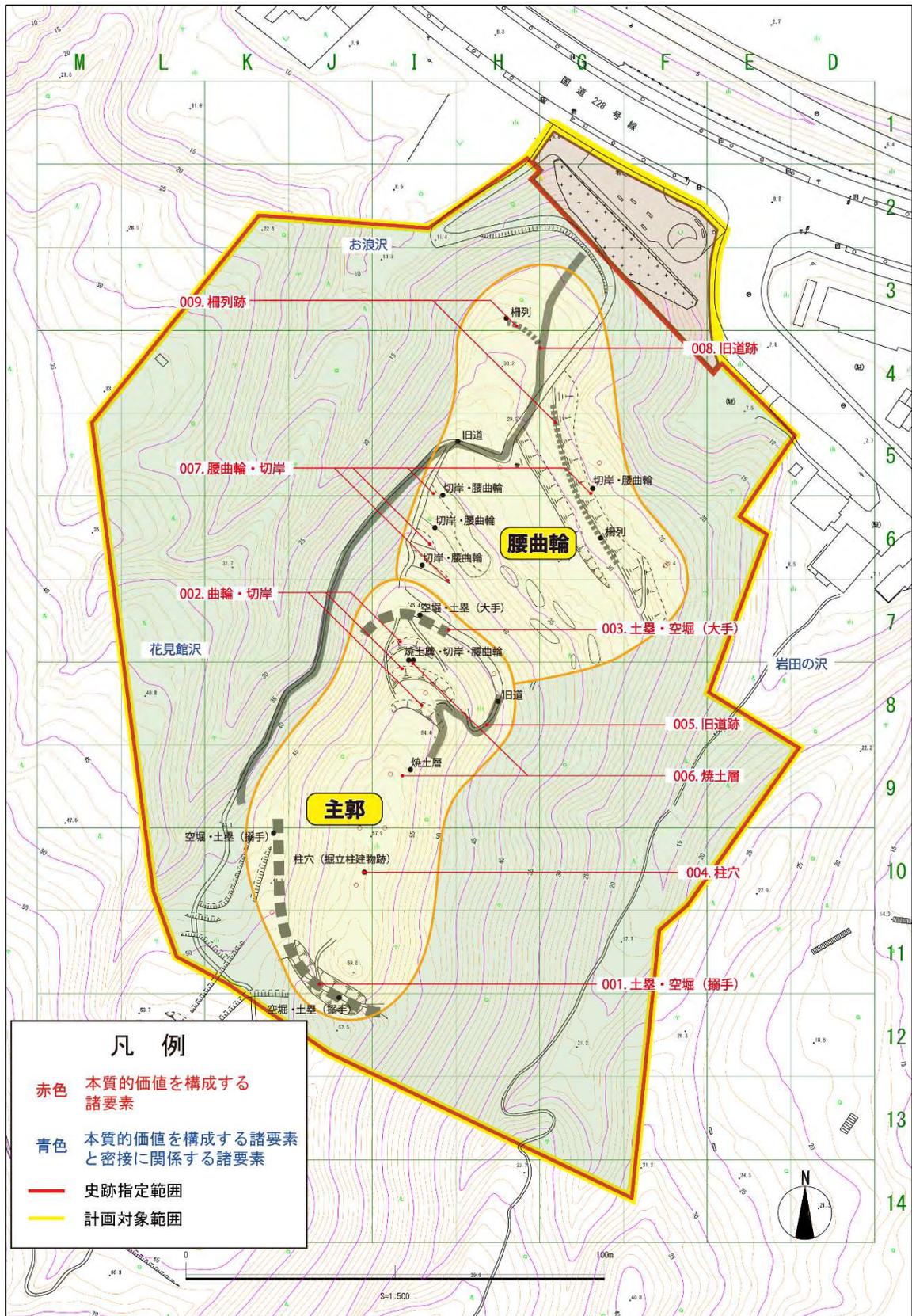


図 4-1 花沢館跡内の遺構分布図

(1) 花沢館跡の本質的価値を構成する諸要素の現状と課題

I 主郭

分類	地上に表出している遺構	発掘調査で明らかとなった遺構・遺物	地形・景観
本質的価値を構成する諸要素	土塁・空堀（搦手）、曲輪、腰曲輪・切岸、旧道跡	<ul style="list-style-type: none"> <li>■遺構：土塁・空堀（大手）、柱穴、旧道跡、焼土層</li> <li>■遺物：陶磁器、金属製品（鉄製品・銅製品）、銅銭、石製品、骨角器</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■景観：洲崎館跡を望む眺望</li> </ul>

<地上に表出している遺構>

001 土塁・空堀（搦手）

- ・頂上部の背後（搦手）を圍繞する箱葉研状の空堀の地形を地上から確認している。
- ・土塁は、空堀外部に空堀の掘上げ土で構築しており、現地形からも認識することができる。
- ・年3回程度の草刈りによる遺構保存を行っているが、草の成長によって遺構が認識しづらい時期も見られる。



写真 4-1 土塁・空堀（搦手） 001

002 腰曲輪・切岸

- ・主郭とされる曲輪は、約 1,000 m<sup>2</sup>の面積で広がり、草刈りにより維持管理している。主郭北側は、切岸によって2段の腰曲輪が構築し、現地形で確認することができる。



写真 4-2 腰曲輪・切岸 002

<発掘調査で明らかとなった遺構・遺物>

003 土塁・空堀（大手）

- ・発掘調査で大手は、空堀外部に空堀の掘上げ土で構築する土塁基底部を確認している。現状では、削平のため認識できない。
- ・切岸直下で空堀を確認したが、現地形からは埋没して認識できない状況となっている。

004 柱穴

- ・主郭では、建物の規模や形態は不明であるが、建物に伴う柱穴を確認している。現状では、覆土により埋め戻しを行い、保存している。



写真 4-3 柱穴 004

005 旧道跡

- ・発掘調査により主郭頂上部に至る旧道跡を検出している。

006 焼土層

- ・主郭には人為的な被熱によって、硬化した焼土層が点在する。この焼土が発生した理由については精査が必要となっている。現状では、覆土により埋め戻しを行い、保存している。



写真 4-4 旧道跡 005



写真 4-5 焼土層 006

### <地形・景観>

花沢館跡は、両側を深く急な岩田沢、花見館沢に挟まれた尾根上に立地しており、標高約 60m の主郭から東側の岩田沢越しに、天の川方面、上ノ国のまちなみは望むことが出来る。平成 23 年（2011）に策定した保存管理計画では、「頂上部から対岸に位置する洲崎館跡が見通せるよう樹木の選択的伐採を行い植生管理に努める」としていたが、現状では針葉樹と広葉樹が生い茂り眺望が阻害されている。また、頂上部の主郭から腰曲輪への眺望についても針葉樹と広葉樹によって阻害されている。



写真 4-6 頂上部の主郭から天の川方面を望む



写真 4-7 頂上部の主郭から洲崎館方面を望む

## II 腰曲輪

分類	地上に表出している遺構	発掘調査で明らかとなった遺構・遺物	地形・景観
本質的価値を構成する諸要素	腰曲輪・切岸、旧道跡	<ul style="list-style-type: none"> <li>■遺構：柵列跡</li> <li>■遺物：陶磁器、金属製品（鉄製品）、石製品</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■景観：主郭を望む眺望</li> </ul>

## <地上に表出している遺構>

### 007 腰曲輪・切岸

- ・発掘調査では、中世に構築された3段の腰曲輪が確認できる。現状では大正期の削平や盛土によって2段のみが認識できる。
- ・また、この辺りは植林された杉やトドマツ、カラマツが大きく成長し、遺構の地形を見渡しにくい現状となっている。



写真 4-10 腰曲輪 007



写真 4-11 切岸・腰曲輪 007

### 008 旧道跡

- ・往時使われていたとされている旧道跡が残っており、現在も歩くことができる。
- ・花見館沢沿いを通り搦手方面につづく旧道跡の脇の法面が降雨などで浸食され、旧道跡が寸断している箇所が見られる。



写真 4-12 旧道跡  
(土砂が流れ寸断している箇所) 008

## <発掘調査で明らかとなった遺構・遺物>

### 009 柵列跡 (図 4-2)

- ・東西に長軸を持つ標高約 30m の腰曲輪で柵列跡を確認している。
- ・北西側に張り出した舌状台地でも柵列跡を確認している。
- ・いずれも覆土で埋め戻しを行い、遺構の保存をしている。そのため、現地で認識することは難しい。

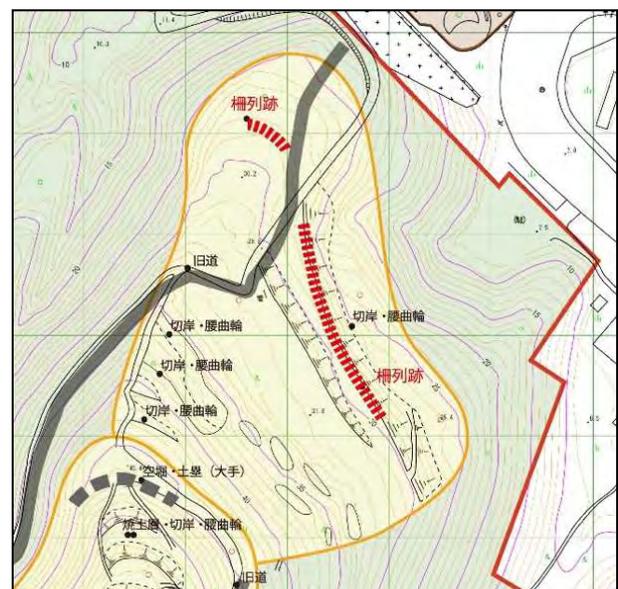


図 4-2 柵列跡位置図



写真4-8 柵列跡（北西側に張り出した舌状台地） 009



写真4-9 柵列跡（腰曲輪） 009

#### <地形・景観>

主郭北側の腰曲輪等が位置している斜面には、植林したスギやトドマツ、カラマツの針葉樹が大きく成長し、館の遺構としての地形を、史跡外から望むことが出来ない状況となっている。

同時に、腰曲輪から主郭方向の眺望も樹木により阻害され、館の遺構として地形・景観を感じる事が出来ない状況となっている。



写真4-13 史跡周辺から花沢館跡を望む

## （2）花沢館跡の本質的価値を構成する諸要素と密接に関係する諸要素の現状と課題

#### <地形・景観>

花沢館跡の主郭は、東を流れる岩田の沢、西を流れる花見館沢・お浪沢によって曲輪が構成している。これらの沢は、現状で史跡の景観を保全しているが、急な斜面となっており、散策にあたり注意が必要である。



写真4-14 曲輪を区画する沢（右が北西）

### （3）花沢館跡の保存・活用のために復元・設置した諸要素の現状と課題

史跡内のサイン・説明施設等の整備は、入口部分に「史跡上之国館跡のうち花沢館跡」を明示する標柱を平成 22 年（2010）に設置した他、主郭北側の腰曲輪に、花沢館跡の由来等を解説する説明板 1 基を昭和 52 年（1977）頃に設置したのみである。

花沢館跡内の動線は、国道 228 号線側沿いに位置する「のんびりお月様公園」の館に向かって右脇から史跡指定地内に入り、作業用に造成された道路や旧道跡を活用して斜面を登り、「大手」側から主郭の頂上部へ向かうルートが主要動線となっている。

この通路は降雨などによる法面の浸食によって、道幅が狭くなっていることや道路脇の切土面の樹木で倒木の可能性が散見している。

また、本メイン動線の途中から分岐し、花見館沢沿いを通り「搦手」側に抜けて主郭頂上部へ至る動線では、沢沿いの法面の土砂崩や倒木が存在するとともに、散策路としての利用を想定した草刈り等の維持管理を行っておらず、一般の来訪者が安全に利用できる動線となっていない。



写真 4-15 法面沿いの狭くなった道路



写真 4-16 史跡標柱【H22 年度整備】

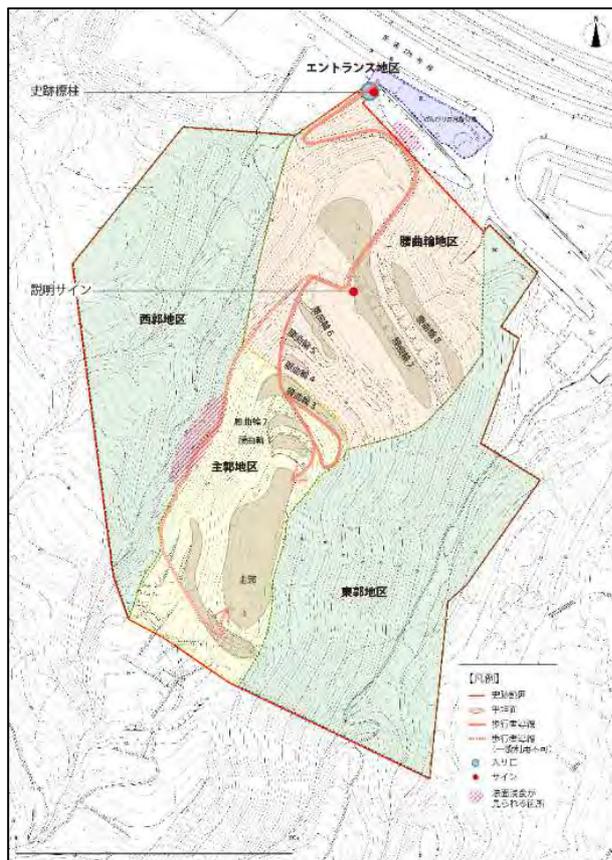


図 4-3 花沢館跡内の動線およびサイン等の現況図



写真 4-17 説明サイン

### （4）その他の諸要素の現状と課題

自然環境のうち植生では、頂上部の主郭で大きく育ったクロマツ（樹齢約 70 年）が見られる。また、搦手の土塁・空堀では、特定外来生物に指定されるオオハンゴンソウの繁茂も見られ、これらの除去対策も検討が必要となっている。

腰曲輪から主郭にかけての斜面には、春先に花を楽しめる植林されたオオヤマザクラやコブシなどが見られるが、弱っている樹木も散見されるため対策が必要となっている。

また、花沢館入口から腰曲輪にかけての林床には、ヒトリシズカやオオバナノエンレイソウ、オオウバユリ、キバナノアマナ、タチツボスミレ、ヒカゲスミレ、ツリフネソウ、キクザキイチゲ、エゾノコンギクなど、多くの山野草の花を季節ごとに見ることが出来る。

生物は、腰曲輪周辺の植林された樹木が密集する箇所ではヒグマ、エゾシカなどの大型陸上動物が見られ、樹木の管理や危険を周知するサインが必要となっている。

また、入口脇にのんびりお月様公園を平成10年(1998)に設置しているが、今後の風力発電工事に係る道路拡幅の関係で一部取り壊しを行う予定となっている。



写真 4-18 頂上部  
(主郭)のクロマツ



写真 4-19 オオハンゴンソウ

表 4-1 花沢館跡の現状と課題のまとめ

項目		現状	課題
調査・分析		<ul style="list-style-type: none"> <li>●建物遺構が確認できていないが、空堀・土塁、腰曲輪、柵などの遺構や出土遺物によって、当時の生活・文化の一端が明らかとなってきた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○調査成果の整理や遺構・遺物の分析。</li> <li>○館の性格の明確化。</li> </ul>
遺構		<ul style="list-style-type: none"> <li>●当時の遺構が残存し、保存されている。</li> <li>●植林した樹木や特定外来生物のオオハンゴンソウの繁茂によって、土塁・空堀(搦手)・曲輪などの地上に表出する遺構を見渡すことがあまりできない。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○現地に立って、花沢館跡の本質的価値や往時の様子を想起することが困難となっている。</li> <li>○大手の土塁・空堀は、削平・埋没によって現状で認識することができない。</li> </ul>
公開	活用	<ul style="list-style-type: none"> <li>●毎年の草刈りなどで遺構の顕在化を行っている。</li> <li>●説明板1基のみの設置。</li> <li>●ベンチや四阿などの休憩箇所がない。</li> <li>●ヒグマが生息する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○歴史や史跡の成り立ちを理解する上で欠かせない植生や地形を理解するサインがない。</li> <li>○注意喚起のサイン・熊鈴がない。</li> <li>○休憩施設がない。</li> <li>○史跡を理解する体験事業が実施されていない。</li> </ul>
	動線	<ul style="list-style-type: none"> <li>●史跡内の動線は、旧道跡(当時)及び作業用に作られた道路が園路として利用されている。</li> <li>●誘導のためのサインが無い状況であり、部分的に土砂が流れ浸食している箇所も見受けられる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○旧道跡の保存。</li> <li>○現在の動線を園路として利用するため、来訪者の安全性・わかりやすさの両立を確立する。</li> </ul>
管理		<ul style="list-style-type: none"> <li>●動線沿いに倒木の可能性がある危険木や、腐朽が進んでいる樹木がみられる。</li> <li>●動線沿いに土砂が流れ浸食する箇所も見受けられる。</li> <li>●現在の園路脇で沢に至る急傾斜な斜面が存在する。</li> <li>●民有地が存在する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○樹木の整理。</li> <li>○伐採した樹木の搬出及び利活用を行う。</li> <li>○園路の安全性の確保。</li> <li>○史跡指定地内の保護・維持管理のための公有地化。</li> </ul>
景観		<ul style="list-style-type: none"> <li>●樹木の成長によって、洲崎館跡方面への眺望が遮られている。また、史跡外から花沢館跡への眺望も樹木によって妨げられている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○樹木の整理によって、史跡内外から視認できるようにする。</li> </ul>
アクセス		<ul style="list-style-type: none"> <li>●駐車場がない。</li> <li>●他の館跡や施設へのサインがない。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○来訪者への史跡入口及び駐車場の周知。</li> <li>○三館をつなぐサインの設置。</li> </ul>

## 第2節 洲崎館跡の現状と課題

### 1. 洲崎館跡の概況

洲崎館跡の概況は以下の通りである。

#### 【概況】

- ・指定面積：57,753.99 m<sup>2</sup>
- ・構造：砂館神社東西の標高約 12m の主郭と神社南～南東側の低地の南郭で、中世の遺構・遺物が確認されているが館全体の構造は明確でない。
- ・遺構：土塁・空堀、曲輪、掘立柱建物跡、竪穴建物跡、焼土層、柵列、腰曲輪・切岸
- ・遺物：陶磁器、金属製品（鉄製品・銅製品）、銅銭、石製品、骨角器
- ・整備状況：指定当時の現状がそのまま保存されており、標柱、説明板の設置以外の整備は行われていない。
- ・維持管理：主体部を中心に毎年約 12,500 m<sup>2</sup>の草刈りを実施している。

### 2. 過年度計画における洲崎館跡の遺構整備方針等の概要

平成 23 年（2011）に策定した『国指定史跡 上之国館跡 花沢館跡 洲崎館跡 勝山館跡 保存管理計画』では、洲崎館跡の史跡の整備と活用の方針において、以下を明記している。

- ①今後発掘調査を行った上で内容の確認を行う
- ②神社推定地や湊跡についても遺構の確認を行う
- ③遺構の保全養生に努める
- ④指定地の約 6 割を占める保安林の樹根が本質的価値である遺構に棄損を生じさせないように関係機関との協議が必要となる

現状では、史跡指定当時の現状をそのまま保存しており、史跡名称の標柱、説明板を 1 基ずつ設置している。その他は、主体部の草刈りを毎年実施するのみとなっている。

### 3. 洲崎館跡の構成要素の現状と課題

第 3 章 2 節で整理した通り、洲崎館跡の構成要素を「本質的価値を構成する諸要素」、「本質的価値を構成する諸要素に密接に関係する諸要素」、「保存・活用のために復元・設置した諸要素」、「その他の要素」の 4 つに区分とした。ここでは、4 つに大別した諸要素の現状と課題について以下に整理する。

#### （1）洲崎館跡の本質的価値を構成する諸要素の現状と課題

##### I 主郭（図 4-4）

分類	地上に表出している遺構	発掘調査で明らかになった遺構・遺物	地形・景観
本質的価値を構成する諸要素	土塁・空堀、曲輪	■遺構：柱穴 ■遺物：陶磁器（15 世紀中葉）、金属製品、銅銭	■景観：花沢館跡・勝山館跡を望む眺望



<地上に表出している遺構>

001 土塁・空堀

- ・空堀状の地形が認識できる箇所が発掘調査で空堀を検出している。
- ・土塁は、空堀外側に空堀の掘上げ土で構築し、現地地形からも認識することができる。
- ・年に1回程度の草刈りによる遺構保存を行っているが、草の生長によって遺構が認識しにくい状況となる時期も見られる。



写真 4-20 土塁・空堀 001

002 曲輪

- ・砂館神社が所在する主郭は、草刈りにより維持管理しているが、遺構の内容について不明である。
- ・昭和8年(1933)の隔離病棟建設に係る削平部分を発掘調査によって確認している。
- ・遺物は、文献史料の築城年代とされる長禄元年(1457)に伴う年代のものが出土している。



写真 4-21 洲崎館跡より勝山館跡を望む

<地形・景観>

- ・主郭西側は、花沢館跡と勝山館跡の両館跡や天の川河口～江差方面の日本海を望むことができる。

II 南郭 (図 4-4)

分類	地上に表出している遺構	発掘調査で明らかになった遺構・遺物	地形・景観
本質的価値を構成する諸要素	曲輪	<ul style="list-style-type: none"> <li>■遺構：柵列、掘立柱建物跡・竪穴建物、柱穴、土壇</li> <li>■遺物：陶磁器（13世紀後葉～）、金属製品、銅銭、骨角器、ガラス玉</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■景観：主郭を望む眺望</li> </ul>

<遺構・遺物>

003 曲輪

- ・竪穴建物跡や掘立柱建物跡の柱穴に切り合い関係なども確認しているため、複数時期に建物が存在したことが推測できる。
- ・遺物は、13世紀後葉～16世紀の年代幅を示す陶磁器が出土しており、主郭より幅広い年代観を示している。
- ・史跡指定地外の住宅地まで中世の遺構・遺物を検出している。
- ・いずれも覆土により埋め戻しを行い保存しており現地において確認することは難しい。



写真 4-22 主郭南東の住宅地に広がる南郭 (上が北) 003

### <地形・景観>

- ・天の川河口に面した立地から川湊を利用した館跡であることが理解できる。
- ・南郭より主郭を望むと保安林により、その形状を明確に認識することができない。



写真 4-23 南郭より主郭を望む

## (2) 洲崎館跡の本質的価値を構成する諸要素と密接に関係する諸要素の現状と課題

### <遺構・遺物>

#### 004 砂館神社（本殿・拝殿・境内地）

砂館神社は、主郭中央に武田信広が寛正3年（1462）に毘沙門堂を創立したのが縁起という。

その後、蠣崎家4世季広が、勝山城代基広（季広の従兄弟）の陰謀露見は毘沙門天の加護によるとして、天文18年（1549）に新堂を造営したことが『新羅之記録』にみえる。

安永7年（1778）12月に社殿が焼失し、藩主道広はただちに造営に着手して安永9年（1780）6月、現在地に本殿並びに拝殿が落成した。現在は、北村町内会の方たちによって、維持管理がされている。



写真 4-24 砂館神社本殿 004

## (3) 洲崎館跡の保存・活用のために復元・設置した諸要素の現状と課題

史跡内のサイン・説明施設等の整備は、入口部分に「史跡上之国館跡のうち洲崎館跡」を明示する標柱を平成22年（2010）に設置した他、同箇所洲崎館跡の由来等を解説する説明板1基を昭和52年（1977）に町費で設置したのみである。



写真 4-25 史跡標柱【H22年度整備】と説明板

#### (4) 洲崎館跡のその他の諸要素の現状と課題

自然環境のうち植生では、保安林のクロマツの他、イタヤカエデ、ギンドロが見られる。また、東側の斜面ではクマザサが茂っている。

砂館神社参道周辺の林床には、エゾエンゴサクやキバナノアマナなどの花を見ることが出来る。

工作物は、南郭にコンクリートの擁壁・参道、リサイクルガレージ及び倉庫などが所在している。



写真 4-26 コンクリート擁壁

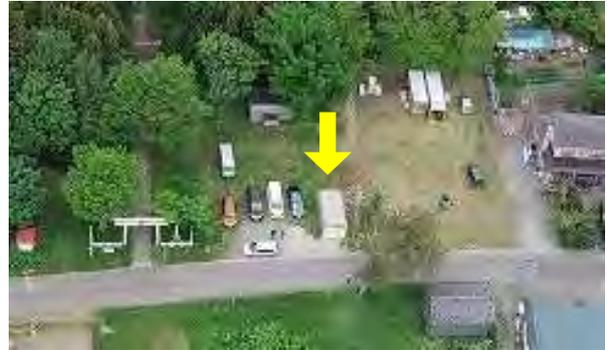


写真 4-27 リサイクルガレージ (上が北)

表 4-2 洲崎館跡の現状と課題のまとめ

項目		現状	課題
調査・分析		<ul style="list-style-type: none"> <li>●館全体の構造の把握ができていない。</li> <li>●空堀・土塁、曲輪などの遺構や出土遺物によって、当時の生活・文化の一端が明らかとなってきている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○調査成果の整理や遺構・遺物の分析。</li> <li>○館の性格の明確化。</li> </ul>
遺構		<ul style="list-style-type: none"> <li>●主郭の一部や南郭で当時の遺構が残存し、保存している。</li> <li>●昭和8年度建設の隔離病棟などによって主郭を削平している可能性がある。</li> <li>●保安林によって、曲輪や地上に表出する遺構を見渡すことが出来ない。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○現地に立って、洲崎館跡の本質的価値や往時の様子を想起することが困難となっている。</li> </ul>
公開	活用	<ul style="list-style-type: none"> <li>●毎年の草刈りなどで遺構の顕在化を行っている。</li> <li>●説明板1基のみの設置。</li> <li>●ベンチや四阿などの休憩箇所がない。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○サインの設置。</li> <li>○史跡を理解する体験事業の実施。</li> </ul>
	動線	<ul style="list-style-type: none"> <li>●史跡内の動線は、特に設けていない。</li> <li>●誘導のためのサインが無い状況であり、部分的に土砂が流れ浸食している箇所も見られる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○園路及び順路の明示。</li> </ul>
管理		<ul style="list-style-type: none"> <li>●倒木の可能性がある危険木や、腐朽が進んでいる樹木が見られる。</li> <li>●民有地が所在する。</li> <li>●南郭に工作物が多く所在している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○樹木の整理。</li> <li>○伐採した樹木の搬出及び利活用。</li> <li>○園路の安全性の確保。</li> <li>○史跡指定地内の保護・維持管理のために公有地化が必要。</li> <li>○工作物の撤去が必要。</li> </ul>
景観		<ul style="list-style-type: none"> <li>●樹木の成長によって、花沢館跡・勝山館跡への眺望が遮られている。</li> <li>●樹木の成長によって、洲崎館跡方面への眺望が遮られている。また、史跡外から花沢館跡への眺望も樹木によって妨げられている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○樹木の整理によって、史跡内外から視認できるようにする。</li> </ul>
アクセス		<ul style="list-style-type: none"> <li>●駐車場がない。</li> <li>●他の館跡や施設へのサインがない。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○来訪者への史跡入口及び駐車場の周知。</li> <li>○三館をつなぐサインの設置。</li> </ul>

### 第3節 勝山館跡の現状と課題

#### 1. 勝山館跡の概況

勝山館跡の概況は以下の通りである。

##### 【概況】

- ・ 指定面積：353,923.98 m<sup>2</sup>
- ・ 構造：山城
- ・ 遺構：空堀、土塁、柵、物見、木橋、建物跡、井戸、曲輪、墳墓、通路等
- ・ 遺物：陶磁器、金属製品、木製品、石製品、土製品、骨角器、ガラス製品、そのうち921点が重要文化財に指定。
- ・ 整備状況：昭和52年度策定の『史跡上ノ国勝山館跡・花沢館跡保存管理計画』にある「史跡地域整備構想」、昭和59年度の「環境整備実施設計書」、平成11年度策定の「史跡勝山館跡等整備基本計画報告書」に基づき大手・搦手木橋・柵列の復元、遺構の平面表示、ガイダンス施設（遺構展示館）・エントランス小広場設置、南北に縦断する散策ルート敷設などの整備が行われている。
- ・ 維持管理：散策エリアを中心に毎年指定地内の約70,500 m<sup>2</sup>の除草、勝山館跡ガイダンス施設の管理及びトイレの清掃を高齢者団体に委託して行っている。

#### 2. 過年度計画における勝山館跡の遺構整備方針等の概要

##### (1) 『史跡上之国勝山館跡・花沢館跡保存管理計画書』における整備方針の概要

昭和52年度(1977)に策定した『史跡上之国勝山館跡・花沢館跡保存管理計画書』において、勝山・花沢両館跡の史跡地域整備構想で段階的規制による環境整備を謳っており、保存管理計画にもとづく事業によって整備をはかる「修景計画区域（史跡指定地）」、景観上重要な役割をもつため緑を維持していく「緑地保存区域」、落ち着いた町なみをつくっていくことを目指す「景観保全区域」の3種の区域に分けており、勝山館跡は「修景計画区域（史跡指定地）」に区分し、館と墳墓群の整備方針を以下の通り定めている。

##### ①館の整備方針

- ・ 主要部分（建物基礎部分等）は、事前に発掘調査を行うこと。
- ・ 石積遺構、空塹等は、調査の上復元する。
- ・ 館を構成する大地は、張芝、土壇で遺構を表現する。
- ・ 館をとりまく沢や斜面は、必要最低限の伐木を行うほかは、原則現状維持とする。
- ・ 古い道路は、調査により歴史性を明らかにし、歴史的な価値のあるものは復元をはかる。

##### ②墳墓群の整備方針

- ・ クマザサは取り除き、芝によって形を表現する。
- ・ 墳墓群の中へは見学者は入れず、周囲から見るようにする。柵は用いず、クマザサ自体が区域を限るような扱いとする。

本計画書の方針に基づき、昭和54～59年度(1979～1984)に搦手・主郭（館神八幡宮跡周辺）・伝侍屋敷跡（東郭）で発掘調査を行い、搦手で搦手空壕芝張り、空壕跡植栽表示、土葬墓41基・ゴミ捨て場の平面表示の他、史跡案内板2基、史跡説明板1基、標識1基を整備している。夷王山墳墓群では、測量を行い、墳墓を認識する標識杭を設置している。その他、旧境界標を整備している。

## (2) 『環境整備実施設計書』における整備方針の概要

昭和 59 年度 (1984) の『環境整備実施設計書』で、「中世の遺構である勝山館跡は、自然の地形を巧みに生かした環境にその大きな特徴があり、整備に際しては、この『土の造型』ともいうべき地形を最大限に生かし、環境整備を図る。」とし、以下の①～⑦を挙げている。

### ①館神八幡宮跡

- ・館神八幡宮跡は、中世の遺構と近世の遺構が重複しており、原則として中世の遺構を優先して表現するが、近世の遺構も歴史的に意味があり明確にあらわれているものは煩雑にならない程度に共存させて表現し説明版により解説する。

### ②侍屋敷跡 (東郭)

- ・侍屋敷跡は、調査が開始されたばかりであるため、調査が完了し十分な考察を行った後に整備することとし、それまでの間は仮整備をする。

### ③平坦部建物跡 (主郭)

- ・平坦部建物跡は、勝山館跡の地形的特徴を表す重要な部分であり、東西の沢に対して台地平坦面が明瞭に浮かびあがるよう植栽計画を行う。
- ・平坦部からの眺望が良いので休憩ゾーンとする。
- ・建物跡などの遺構は一部しか調査されていないため、遺構の整備は詳細な調査実施後とする。

### ④空壕跡 (搦手)

- ・空壕跡の整備は、昭和 58 年度 (1983) までに実施されているため、説明板等の整備を行う。

### ⑤寺の沢用水施設跡 (西郭)

- ・館での生活を知るうえで重要な遺構であり、復元可能なものは、復元整備する。
- ・「鶴の池」は未調査のため、周辺を含め調査のうえ整備する。

### ⑥荒神堂跡 (大手)

- ・荒神堂跡は未調査であるため、詳細な発掘調査後、石積みの復元整備を行う。

### ⑦夷王山墳墓群

- ・現状の形態を尊重しつつ、墳墓群の特徴を表現する。
- ・群在する墳墓群の形状が明瞭になるよう、クマザサ等の草刈りを定期的に行う。

本実施設計書に基づき、昭和 60 年度 (1985) から平成 2 年度 (1990) に主郭 (館神八幡宮跡)、伝侍屋敷跡 (東郭)、北郭 (大手空堀箇所) で発掘調査を行うと共に、夷王山墳墓群、搦手、主郭 (館神八幡宮跡周辺)、西郭 (寺の沢用水施設) で、以下のとおり整備事業を実施している。

- ①館神八幡宮跡—土塁 (近世)・柵列復元、館神八幡宮跡 (中世・近世)、石積階段 (近世)、掘立柱建物跡平面表示。
- ②侍屋敷跡 (東郭)—掘立柱建物跡の遺構を検出していたが、性格が不明確であったため、整備が未実施となっている。
- ③平坦部建物跡 (主郭)—四阿の設置。
- ④空壕跡 (搦手)—空壕跡、搦手空壕跡植栽表示、園路 (丸太ステップ) の設置。
- ⑤寺の沢用水施設跡 (西郭)—寺の沢用水施設跡 (井戸・ため池・木樋) の復元整備。
- ⑥荒神堂跡 (大手)—発掘調査を主郭周辺で優先して行い、当箇所では実施できなかったため、整備について未実施となっている。
- ⑦夷王山墳墓群—草刈りによる遺構の顕在化を行っている。
- ⑧全体—樹木の伐採、古道跡整備、園路、説明板、表示板、境界標を整備している。

### (3) 『史跡勝山館跡等整備基本計画』における整備方針の概要

平成 11 年度（1999）策定の『史跡勝山館跡等整備基本計画』では、勝山館跡の構造について中世城館であるが、戦いの道具類よりも日常生活を示す遺物が多く、アイヌの存在を示す遺物も出土していることを受けた整備方針を提示している。

#### 全体整備基本方針

- ・防衛的構造を持ちながらその中に生活の場としての展開があったことをうかがわせる性格を持った中世館として整備を行う。

#### 遺構整備方針

- ・特徴ある縄張りを再現するとともに構造が判明したものは復元し、中世館空間の再現を目指す。

#### 整備計画

- ・勝山館跡を機能別にゾーン分けし、そのゾーンごとに特徴が出る整備を行う。
- ・それらを有機的に繋げることによって史跡勝山館跡のみならず、勝山館跡を中心とした中世上ノ国の姿（中世都市）が浮かび上がるような整備をする。
- ・対象時期を、勝山館の安定期と考えられる光広が大館に移る直前の第Ⅲ期（16世紀初）とする。

『史跡勝山館跡等整備基本計画』におけるゾーンごとの整備方針、遺構の整備方針の概要を以下に整理する。

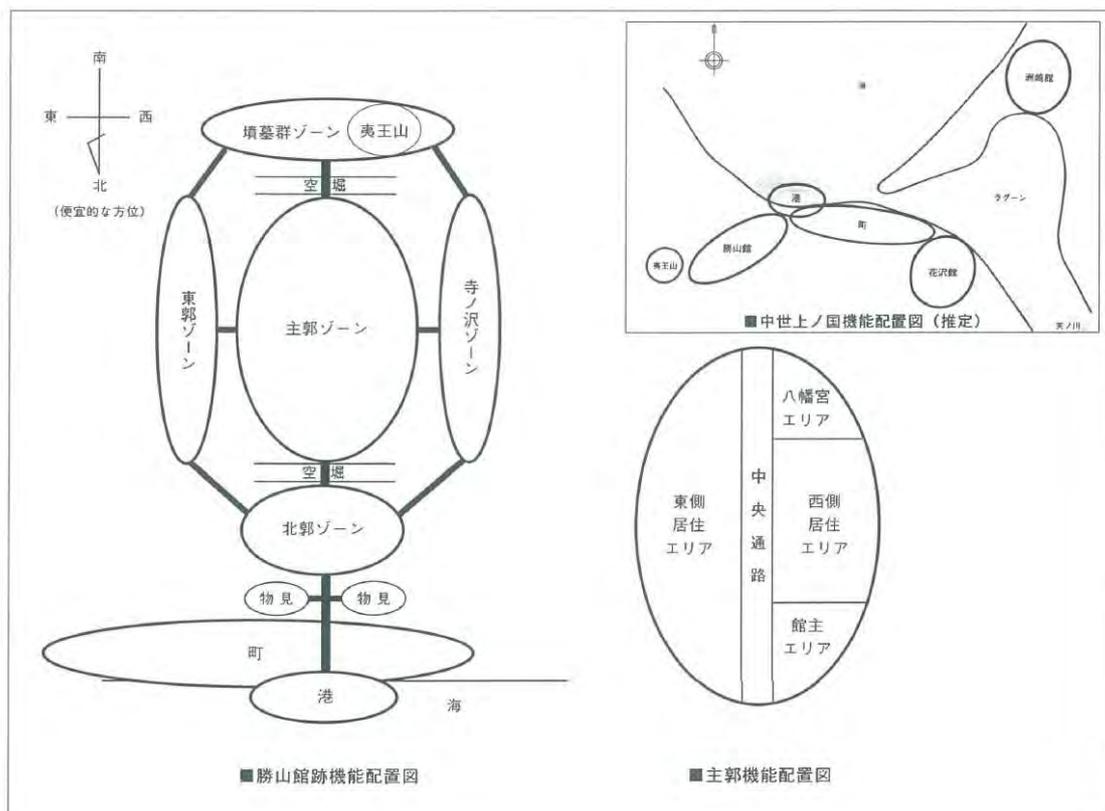


図 4-5 ゾーン図（平成 11 年度 史跡勝山館跡等整備基本計画報告書より）

#### ①北郭ゾーン（虎口、大手）—館主要部への入口部分となり重要なゾーン

- ・未発掘部分が半分以上占めるため、郭の構造・機能がはっきりわからない。
- ・この郭が勝山館の主要部分の入口となっていることから、虎口、通路の確認調査を優先的に行い、明らかになったものに関して復元を行う。
- ・今後の発掘調査結果により、中央通路、溝、屋敷割り等の地形の復元を行う。

②主郭ゾーン（主郭、神社、搦手）—防衛だけではない都市的機能が存在していたことを示す勝山館の主要部

- ・主郭では、機能に応じて分けしていたと思われることから、各区の特徴的機能を表現するため以下のような整備を行う。
- ・郭北西部：主郭の中でただ1つ、板塀で区画された館主が使っていた空間。
- ・郭南側後方（神社、搦手）：館神八幡宮跡部分は、土塁に囲まれ他と異なった特別な宗教空間。
- ・その他の部分：中心通路を挟み細かく屋敷割された居住空間、これらとともに、鍛冶・鑄造跡遺構（工房跡）や配石遺構（庭）、井戸遺構も積極的に整備し、郭内で生活臭が感じられるような空間。

③寺ノ沢ゾーン（用水施設）—勝山館の人々に水を供給する場所

- ・井戸跡、貯水池、鶴の池など水に関連する遺構を発見しており、水を供給する場所として、遺構確認調査の上、寺の沢の機能を明確にする。そして、各郭を繋ぐ通路と生活水である「水」をテーマとした整備を行う。

④東郭ゾーン（華の沢倉庫群）—「伝侍屋敷跡」と呼ばれてきた郭の構造・生活が不明確なゾーン

- ・伝侍屋敷跡とされた東郭は、検出した遺構と隣接して流れる沢の名称から「華の沢倉庫群」としている。
- ・住居跡、倉庫跡、炉跡の遺構を検出しているが、郭の正確な範囲不明、郭の性格・機能も明らかではない。
- ・今後の調査結果を受けて整備する。
- ・主郭から東郭が見えるようにし、主郭の東側下方に郭が存在していることを意識させる。

⑤夷王山墳墓群ゾーン（夷王山墳墓群）—勝山館に居住する人々の精神的拠り所となっていたと考えられるゾーン

- ・6地区の墓域それぞれを、墳墓の形状や多さを視覚的に表現するなど、墓域空間と時間の経過を感じられるよう遺構整備を行う。

その他、各施設等について個別の整備方針・整備計画を取りまとめており、この計画に基づき平成12～22年度（2000～2010）に下表の通り段階的整備を行い、現在の整備状況となっている。

表 4-3 勝山館跡の整備状況

地区区分	遺構	整備状況
北郭ゾーン	虎口、大手	<ul style="list-style-type: none"> <li>・米蔵、文庫蔵をガイダンス施設として復元整備（H13～14）</li> <li>・エントランス小広場整備（H20）</li> <li>・大手園路手すり設置（H21）</li> </ul>
主郭ゾーン	主郭、神社、搦手	<ul style="list-style-type: none"> <li>・柵（大手）の復元整備（H14～15）</li> <li>・遺構の平面表示（H15～16）</li> <li>・中央通路の復元整備（H17～19）</li> <li>・柵（搦手）の再整備（H22）</li> </ul>
寺ノ沢ゾーン	用水施設	<ul style="list-style-type: none"> <li>・主郭の整備を優先して行ったため、整備未実施</li> </ul>
東郭ゾーン	華の沢倉庫群	<ul style="list-style-type: none"> <li>・発掘調査成果の検討によって倉庫群と位置付けられるが、整備未実施、勝山館跡ガイダンス施設の模型で復元している</li> </ul>
夷王山墳墓群ゾーン	夷王山墳墓群	<ul style="list-style-type: none"> <li>・勝山館跡ガイダンス施設の建設、全体模型の製作、墳墓レプリカ（H15）</li> </ul>

なお、本基本計画中の遺構保存計画において、遺構養生として凍結抑制も考慮した 60 cm の盛土厚とすることとしている。また、本計画策定以前の発掘調査完了箇所については、約 20～30 cm の盛土、それ以外の遺構面は現況レベルから約 30～40 cm 下に埋まっていると推定している。

#### **（４）『国指定史跡上之国館跡 花沢館跡洲崎館跡勝山館跡保存管理計画』における整備方針の概要**

平成 22 年度（2010）に策定した『国指定史跡 上之国館跡 花沢館跡 洲崎館跡 勝山館跡 保存管理計画』では、以下の現状・課題を受け、勝山館跡の史跡の整備と活用に関して方針を示している。

##### **現状・課題**

- ・主郭である第二、第三平坦面で 7 割ほど整備が行われたが、主郭左右の切岸下の寺ノ沢跡用水施設や鶴の池、華ノ沢倉庫群では整備を行っておらず、史跡を理解するうえで十分ではない。
- ・過去の整備に伴って年間の維持管理経費が増加する傾向にある。

##### **整備と活用の方針**

- ・今後は整備箇所を分散させることなく、勝山館跡を南北に縦断するルート沿線に絞って整備を進める。
- ・物見跡、荒神堂跡等の復元整備や斜面崩落地の法面保護などの災害対策を優先的に進める。
- ・宮の沢川と寺の沢川のコンクリート三面張り水路について、自然石の石積みに変えるなど史跡の本来的な水辺環境の復原に向け検討する。
- ・過去に整備した箇所では、経年による老朽化、毀損等も予想できるため、再整備を検討する。
- ・見学者にわかりやすい情報の提供に努める。
- ・戦後に植林し樹冠を上げる二次林である杉やトドマツ等が眺望景観を阻害しているため、夷王山山頂から館跡主体部、中央通路から対岸の洲崎館跡が見通せるよう樹木の選択的伐採を行い植生管理に努める。
- ・勝山館盛行期における「ミズナラブナ」を中心とした景観（古環境）の復元については、現況植生の分析結果に基づき植生管理の方針を定め、機会を捉えて実現に移すこととする。
- ・夷王山墳墓群は重要な遺構であることから、遺構確認調査等を最小限とし、慎重に対処しながら現状保存に努める。昭和 56 年度の測量調査で確認された墳墓に番号を付した表示杭は、現状で欠損するなど、番号が認識できないものも多くなっており、表示方法を工夫するなどして更新を行う。

本計画を策定した平成 23 年（2011）以降は、以上の方針に基づき調査及び維持管理を行っているが、新たな整備事業を行うことができていない。

その理由としては、大きく以下の 2 点を挙げることができる。

1 点目は、史跡から出土した遺物で金属製品や木製品で劣化が顕著になってきたものが散見されたため、出土品の保存処理を優先して行ったこと。

2 点目は、従来 2 名の専門職員で文化財の保存活用に関わる業務を行っていたものが退職に伴い 1 名体制となり、複数の業務を推進するにあたり人材に不足が生じたことである。

### 3. 勝山館跡の構成要素の現状と課題

#### (1) 本質的価値を構成する諸要素の現状

第3章2節で整理した通り、本質的価値を構成する要素に分類している遺構は、勝山館跡内に広く分布していることが確認されている。ここでは、これらの遺構の保存・整備の現状と本質的価値を構成する地形・景観の現状を整理する。

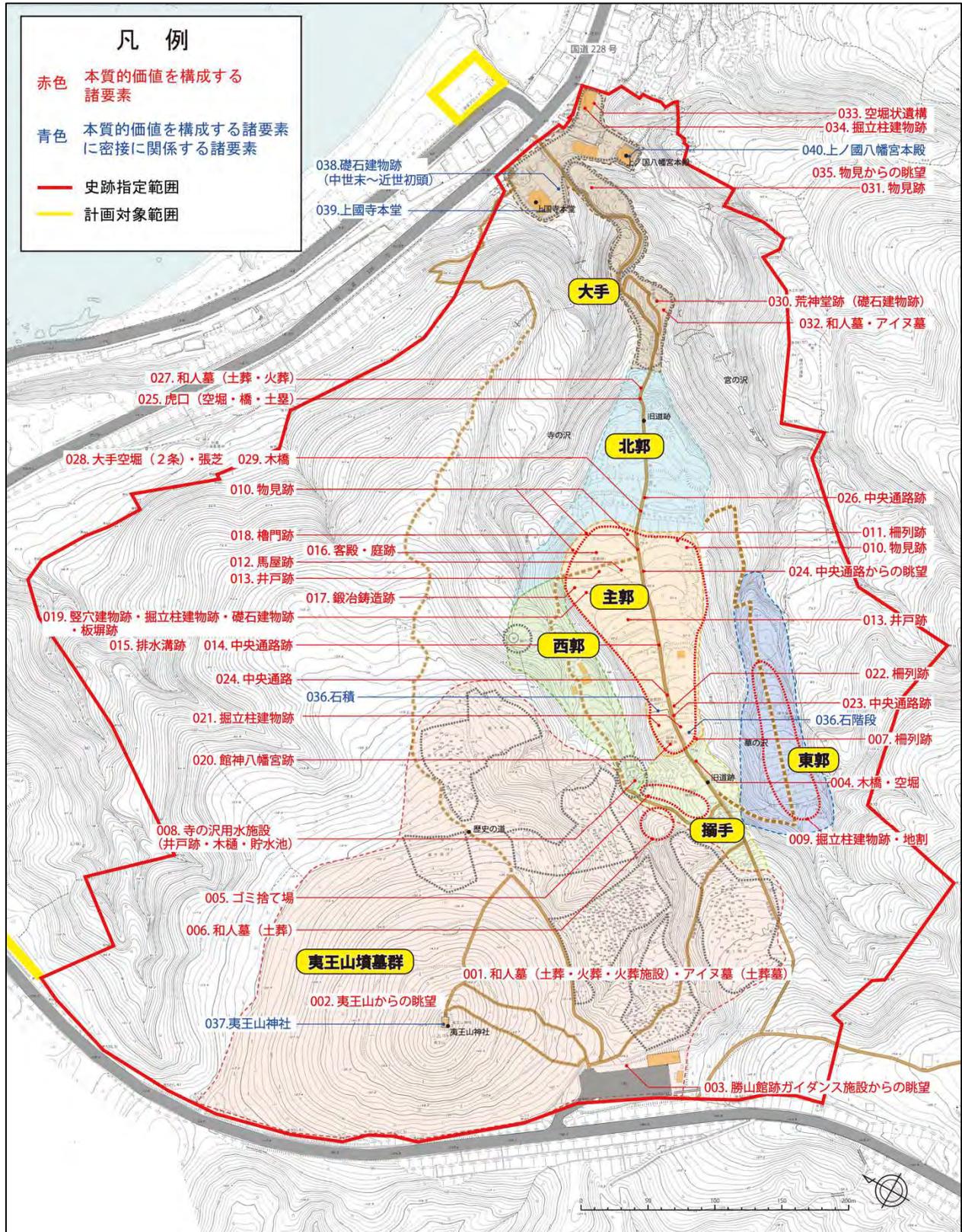


図 4-6 勝山館跡遺構分布図

## I 夷王山墳墓群（図 4-6）

分類	地上に表出している遺構	発掘調査で明らかになった遺構・遺物	地形・景観
本質的価値を構成する諸要素	墳墓盛土	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 遺構：和人墓（土葬・火葬・火葬施設）・アイヌ墓、配石遺構</li> <li>■ 遺物：木棺・和釘、副葬品（漆器、銅銭、数珠玉、太刀他）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 景観：主郭を望む眺望、洲崎館方向を望む眺望</li> </ul>

### <発掘調査で明らかになった遺構・遺物>

現状では、土盛の墳墓の形状と墓標柱により、墳墓の形状や多くの墳墓が点在している様子がわかる空間となっている。

#### 001 和人墓（土葬・火葬・火葬施設）・アイヌ墓

- ・館跡後方から夷王山山麓一体にかけて墳墓群（火葬墓、土葬墓）が広がっている。
- ・墳墓群の中からは、和人墓 124 基に加えて、アイヌ墓も 3 基発見されており、和人・アイヌの混住説を裏付ける有力な物証となっている。
- ・群在する墳墓群の形状が明瞭になるよう、クマザサを取り除き、芝によって形を表現し、定期的な草刈りによる管理を行っている。
- ・土盛の墳墓の形状と墓標柱により、多くの墳墓が点在している様子がわかる空間となっているが、墓標柱は、昭和 56 年度（1981）の測量調査で確認した墳墓に番号を付したものであり、現状では欠損していて番号が認識できないものも多く老朽化が激しい状況である。
- ・また、勝山館跡の性格を伝える上で、特に重要とされるアイヌ墓が未整備となっている。
- ・勝山館跡ガイダンス施設駐車場の下に和人墓があることを確認している。
- ・舗装整備にあたっては、基本的に凍結深度となる 60 cm の盛土厚を確保し、遺構保存をした上でを行っている。
- ・夷王山墳墓群エリアも含めた墳墓群全体を解説する説明サインを、昭和 60 年（1985）前半に設置している。



写真 4-28 墳墓群標柱（第Ⅱ地区）  
【S58 年度整備】 001



写真 4-29 破損・老朽化が目立つ標柱  
【S58 年度整備】 001

### <地形・景観>

#### 002 夷王山からの眺望

- ・夷王山山頂からは洲崎館方向や上ノ国市街地、天の川河口、日本海を良好に望むことができる。
- ・樹木の成長により勝山館内方向は部分的に視認できない。



写真 4-30 夷王山から洲崎館跡、主郭を望む 002

### 003 勝山館跡ガイダンス施設からの眺望

- ・ガイダンス施設内から洲崎館方向を望むことが出来るが、樹木が成長し一部眺望を阻害している。眺望を阻害する樹木の選択的伐採が必要である。



写真 4-31 ガイダンス施設から洲崎館方向を望む 003

## II 搦手 (図 4-6)

分類	地上に表出している遺構	発掘調査で明らかになった遺構・遺物	地形・景観
本質的価値を構成する諸要素	—	<ul style="list-style-type: none"> <li>■遺構：空堀（橋）跡、ゴミ捨て場、和人墓（土葬）、柵列跡</li> <li>■遺物：陶磁器、金属製品、木製品、自然遺物（魚貝骨、獣骨等）</li> </ul>	—

### <発掘調査で明らかになった遺構・遺物>

- ・遺構の復元整備や平面表示を行い、サイン等での情報提供も行っており、往時の様子を体感し、知ることが出来る空間となっている。整備年度が古く、施設の老朽化が進む箇所が見受けられる。

### 004 木橋・空堀

- ・搦手の発掘調査において、3条の空堀を確認している。
- ・空堀覆土からの出土品は、アイヌ・和人混住説の物証の資料の一部となっている。
- ・主郭搦手門に最も近い空堀（写真 4-32：空堀跡Ⅲ）は、掘りあげた状態に野芝を張り付けて表現している。

- ・他の2条の空堀は埋め戻し、空堀の形に地被植物を植栽することで空堀を表現している。
- ・搦手の空堀は、昭和56～57年度(1981～1982)に芝張りおよび植栽表示を整備し、現在も維持しているが、植栽は経年により、他の植物の侵入や形状の崩れなどが見られる。
- ・また、平成13年度(2001)には、空堀に木橋を復元整備している。橋の木部の一部に腐朽が見られるが、構造部分は維持している。
- ・遺構を解説する説明サインも同時期に設置している。



写真 4-32 空堀・橋の位置図  
(説明サイン板面より) 004



写真 4-33 搦手の植栽による空堀整備、橋・柵の復元  
【空堀植栽 S58 年度整備、橋 H13 年度整備、柵 H22 年度整備】 004

### 005 ゴミ捨て場（貝塚）

- ・ 搦手の空堀内堆積土の一部より魚介類等の堆積層を確認し、ゴミ捨て場と考えられる。魚ではニシン、貝ではクボガイ（ツブ貝）が最も多く、獣骨ではシカが多い。種子では、北海道に自生していないモモやカキが見つかり、果実として搬入していたことが考えられる。
- ・ 堆積には、大量の骨角器や木製品などが混じり、その中には、アイヌ・和人混住説の物証資料となる遺物も確認している。
- ・ 昭和 58 年度（1983）の環境整備工事において、45 cm 間隔に丸太杭を打ち込み、ゴミ捨て場の範囲を表現する整備を行っている。
- ・ 説明板が地盤沈下によって倒れている。



写真 4-34 丸太によるゴミ捨て場平面表示  
【S58 年度整備】 005

### 006 和人墓（土葬）

- ・ 和人の土葬墓群を確認している。
- ・ 土葬墓は、昭和 58 年度（1983）の環境整備工事において、丸太杭で墓壇の輪郭をあらわし、内部にグラウンドカバーであるアジュガ（外来種）を植栽している。初夏に開花し、土葬墓を顕在化するが、経年により植物が弱ったり消えたりしている。



写真 4-35 和人墓（土葬）平面表示・説明板倒立状況  
【S61 年度整備 ※板面は H19 年度に取替え】 006

### 007 柵列跡

- ・ 搦手調査において確認した柵列を、昭和 60 年度（1985）に整備した。その後の劣化に伴い、平成 22 年度（2010）に最新の調査成果に基づき再整備を行っている。
- ・ 実際の検出遺構の杭穴の間隔から現状の柵に仕様を変更した。
- ・ 復元した柵列は現状で大きな腐朽等は見られず、良好な状態で維持している。



写真 4-36 柵の再整備前【S60 年度整備】 007



写真 4-37 柵の再整備後【H22 年度整備】 007

### Ⅲ 西郭（図 4-6）

分類	地上に表出している遺構	発掘調査で明らかになった遺構・遺物	地形・景観
本質的価値を構成する諸要素	曲輪	<ul style="list-style-type: none"> <li>■遺構：寺の沢用水施設（井戸跡、貯水池、木樋）</li> <li>■遺物：陶磁器、金属製品、木製品、ソバ・ドクダミの花粉</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■地形：寺の沢</li> <li>■景観：主郭を望む眺望</li> </ul>

#### <発掘調査で明らかになった遺構・遺物>

現状では、木樋、井戸枠の復元整備を行っており、館に水を供給する場所であったことをわかりやすく伝える空間となっている。

#### 008 寺の沢用水施設（井戸跡・木樋・貯水池）

- ・環境整備工事として、木樋、井戸跡、貯水池の復元整備を行っており、寺の沢川の水が流れるようになっている。周囲は張芝で整備している。
- ・木質箇所で老朽化・腐朽が進み、再整備が必要である。
- ・遺構の内容を説明する御影石製の表示板を整備している。

#### - 井戸跡

- ・寺の沢地内において、木樋（置樋）や深さ 80 cm あまりの木製溜井戸枠などの用水施設跡を発見している。

#### - 木樋

- ・1本の丸太をくり抜いてつくられた長さ約 4.9m、幅約 40 cm の樋。下に土台材を敷き、ゆるい傾斜をつけ川の中央からやや斜めに固定している。

#### - 貯水池

- ・井戸に隣接し、搦手の空堀から流れる雨水を貯水する池を確認している。



写真 4-38 御影石の表示板【S59 年度整備】008



写真 4-39 井戸・貯水池・木樋の復元整備【S61 年度整備】008

### Ⅳ 東郭（図 4-6）

分類	地上に表出している遺構	発掘調査で明らかになった遺構・遺物	地形・景観
本質的価値を構成する諸要素	曲輪	<ul style="list-style-type: none"> <li>■遺構：掘立柱建物跡、地割</li> <li>■遺物：陶磁器、金属製品</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■景観：主郭を望む眺望</li> </ul>

#### <発掘調査で明らかになった遺構・遺物>

現状で、階段を整備しているものの草刈り頻度が低く、倒木やヒグマの出没があり、立ち入り制限が必要なエリアとなっている。また、曲輪は樹木や野草が繁茂しており、主郭から見えにくい状況となっており、遺構の存在を感じにくい状況となっている。

#### 009 掘立柱建物跡・地割

- ・華の沢の平坦面で検出した 21 段状の区画（地割り）から、約 20 棟の総柱の倉庫跡と、10 棟の掘立柱建物跡を発見している。
- ・現状では、華の沢倉庫群に降りる階段を整備しているが草刈り頻度が低く、倒木やヒグマの出没があり、立ち入り制限が必要なエリアとなっている。また、樹木や野草が繁茂しており、主郭から見えにくい状況となっており、安全に配慮しながら、遺構の存在を意識させる環境整備が必要となっている。



写真 4-40 華の沢倉庫群跡を上方より望む 009

## V-1 主郭—客殿周辺 (図 4-6)

分類	地上に表出している遺構	発掘調査で明らかになった遺構・遺物	地形・景観
本質的価値を構成する諸要素	曲輪	<b>■遺構</b> ：物見跡、柵列跡、馬屋跡、井戸跡、中央通路跡、排水溝跡、客殿・庭跡、鍛冶・鍛冶跡、櫓門跡、堅穴建物跡・掘立柱建物跡・礎石建物跡・石塀跡 <b>■遺物</b> ：陶磁器、金属製品、石製品、土製品、鍛冶・鍛冶関連遺物（羽口、るつぼ、銅滴、銅滓）	<b>■景観</b> ：夷王山・北郭・東郭・西郭、天の川河口・洲崎館跡を望む眺望

### <発掘調査で明らかになった遺構・遺物>

勝山館跡の大きな特徴の1つである曲輪内の屋敷割り（区画）と、中央通路、溝、周囲の丸太柵を復元、建物遺構を表示しており、往時の生活空間の広がりを感じられる空間となっている。

また、九間二室が連続する客殿の建物跡は、館主が使用したと考えられるため、他の遺構の平面表示と色の違う石材等により、メリハリをつけて表現している。整備計画では、板塀、門の復元も計画していたが実現はしていない。

居住空間の遺構、鍛冶・鍛冶跡遺構、配石遺構（庭）、井戸遺構などの平面表示を行っている。



写真 4-41 主郭（客殿周辺）の整備【H14～17 年度整備】

### 010 物見跡

- ・大手空堀の上や、主郭の東隅、華の沢側の帯郭の上に物見櫓の跡を確認しており、勝山館跡の正面から東側が嚴重に守られていたことを伝えている。
- ・物見に関する復元等の整備は行っておらず、堅固な主郭の姿と異なっている。
- ・主郭を取り囲む形で柵列跡を確認しており、環境整備により復元整備を行っている。

### 011 柵列跡

- ・主郭を取り囲む形で柵列跡が確認されており、環境整備により復元整備が行われている。



写真 4-42 柵列の復元整備【H14 年度整備】 011

### 012 馬屋跡

- ・中央通路沿いの、内部が6つに仕切った建物跡で馬のあごや足の骨が見つかっており、馬屋であったと考えられる。
- ・建物の平面表示を整備している。



写真 4-43 馬屋の平面表示【H15・16 年度整備】 012

### 013 井戸跡

- ・客殿専用と考えられる井戸は、立ち上りの石で平面表示している。



写真 4-44 井戸の平面表示【H15・16 年度整備】 013

### 014 中央通路跡

- ・三段の平坦面の中央を、幅 3.6m の通路（中央通路）が通っていたことが分かっている。
- ・近世に松前藩主が使用する通路跡でもあり、平成 8 年度（1996）に「福山街道」として「歴史の道百選」に選定されている。
- ・通路舗装の老朽、腐朽が目立つ。維持管理や安全性を考慮した上で構造・素材等を検討し、再整備が必要。

### 015 排水溝跡

- ・三段の平坦面を縦貫する中央通路の両側には、排水溝を設けていたことを確認できる。
- ・復元整備した排水溝の腐食や木の割れ、釘の外れが目立つ。
- ・維持管理や安全性を考慮した上で構造・素材等を検討し、再整備が必要。



写真 4-45 腐食や腐朽が目立つ中央通路及び排水溝【H17 年度整備】 014・015

## 016 客殿・庭跡

- ・館主が使用したと考えられる客殿跡遺構は、石材により建物範囲や柱の明示を行い、建物の面には防草シートを施工のうえ、他の遺構平面表示と色の違う白色の化粧砂利を敷設している。
- ・客殿の北西部に小砂利が一面に敷かれ、平らな小石が立て並べられた平庭のような庭跡を確認しており、平面表示の整備を行っている。



写真 4-46 客殿遺構の平面表示  
【H15・16年度整備】 016



写真 4-46 庭跡の平面表示  
【H15・16年度整備】 016

## 017 鍛冶鑄造跡

- ・板塀で囲まれた敷地の西隅に、鍛冶鑄造作業場の跡を確認しており、平面表示の整備を行っている。



写真 4-47 鍛冶鑄造跡【H15・16年度整備】 017

## 018 櫓門跡

- ・中央通路の側溝より新しい大型の柱穴を確認し、櫓門として平面表示をしている。慶応2年（1866）の絵図で鳥居が描かれるため、近世に設置された鳥居の痕跡と思われる。



図 4-8 櫓門の配置図



写真 4-48 櫓門の平面表示【H19年度整備】 018

## 019 竪穴建物跡・掘立柱建物跡・礎石建物跡・板塀跡

- ・主郭において、竪穴建物跡 103 基、掘立柱建物跡約 200 棟、石敷き礎石建物跡 1 棟の遺構を検出しており、掘立柱建物は、5～6回の建替えを行ったことが想定できる。建物は中央通路を挟んで整然と並んで配置されていたことを確認している。
- ・現在、主郭部では、屋敷割り地形の復元および、客殿や住居、小屋、倉などと考えられている建物遺構や板塀が平面表示及び芝張り整備を行っている。平面表示は、石材により建物範囲や柱の明示を行い、建物の面には防草シートを施工のうえ化粧砂利を敷設している。



写真 4-49 掘立柱建物の平面表示  
【H15・16年度整備】 019



写真 4-50 板塀の平面表示  
【H15・16年度整備】 019

## V-2 主郭—館神八幡宮周辺 (図 4-6)

分類	地上に表出している遺構	発掘調査で明らかになった遺構・遺物	地形・景観
本質的価値を構成する諸要素	曲輪、土塁	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 遺構：館神八幡宮跡、掘立柱建物跡、竪穴建物跡、柵列跡、中央通路</li> <li>■ 遺物：陶磁器、金属製品、銅銭、石製品</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 景観：夷王山を望む眺望</li> </ul>

### <発掘調査で明らかになった遺構・遺物>

第1期整備期間に、土塁復元、丸太柵復元、館神八幡宮等の平面表示の整備を行っている。館神八幡宮は、中世と近世の遺構が重複しており、共に平面表示を行っている。時代の違いは、サインの表示を見れば把握することが出来るが、まぎらわしい。



写真 4-51 主郭（館神八幡宮周辺）の整備【S60・H18年度整備】（下が北）

## 020 館神八幡宮

- ・主郭頂上部の掘立柱建物跡は、創建当初の社跡と考えられ、遺構の平面表示の整備を行っているが、遺構・遺物の再調査により、仏堂の遺構であった可能性が高まっている。今後、館全体の性格付けと合わせて、再度、詳細な調査検討が必要となっている。
- ・館平坦面の頂上部の礎石建物跡は、江戸期の本殿覆屋の跡と考えられ、平面表示の整備を行っている。また、周囲の土塁も江戸期のものである。
- ・史跡全体では、中世年代の遺構復元整備とすると、江戸期の遺構表示となっており、整備年代の違いに対する整理が必要となっている。
- ・防草シートによって整備した平面表示内のスギナ等を除草していたが、経年劣化によって防草効果が低下している。



写真 4-52 館神八幡宮（中世）の平面表示  
【S60 年度整備】 020



写真 4-53 手前に近世、後方に中世の館神八幡宮の平面表示  
【S60 年度整備】 020

## 021 掘立柱建物跡

- ・館神八幡宮の中央道路を挟んで反対側に、掘立柱建物跡を検出しており平面表示している。
- ・この建物跡は性格が不明であるが、社寺関係の遺構の可能性があるので、今後、詳細な調査が必要となっている。
- ・整備年度が古い館神八幡宮周辺と主郭周辺の平面表示の復元仕様が異なっている。



写真 4-54 館神八幡宮向けの掘立柱建物の平面表示  
【S60 年度整備】 021



写真 4-55 掘立柱建物の平面表示  
【S60 年度整備】 021

## 022 柵列跡

- ・御影石の縁石と砂利で柵列跡を表現している。



写真 4-56 柵列の平面表示【S60 年度整備】 022

### 023 中央通路跡

- ・主郭から続く幅 3.6m の通路で、土舗装により平面表示を行っている。
- ・傾斜の急な箇所に石階段を設置しているが、石と舗装との間に亀裂が生じているとともに、管理用車両等の通行を妨げている。



写真 4-57 中央通路の石階段  
【H18 年度整備】 023

### <地形・景観>

#### 024 中央通路からの眺望

- ・主郭（館神八幡宮周辺）の上方からは、夷王山、洲崎館方向や上ノ国市街地、日本海を良好に望むことが出来る。
- ・主郭（客殿周辺）の下方からは、洲崎館方向や日本海を一部望むことが出来るが、樹木の成長により眺望が阻害されている。



写真 4-58 主郭(客殿周辺)下方の中央通路から洲崎館方向を望む（樹木の成長により眺望が阻害されている） 024

## VI 北郭（図 4-6）

分類	地上に表出している遺構	発掘調査で明らかになった遺構・遺物	地形・景観
本質的価値を構成する諸要素	曲輪、虎口（空堀・土塁）、旧道跡	<ul style="list-style-type: none"> <li>■遺構：大手空堀（橋）、虎口（空堀・橋・土塁）、中央通路（側溝）、和人墓（土葬・火葬）</li> <li>■遺物：木製品、シロシ入り白磁、副葬品（漆器、銅銭他）、魚貝骨</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■景観：主郭を望む眺望</li> </ul>

### <発掘調査で明らかになった遺構・遺物>

大手部分は、空堀、木橋を復元し、鉄壁の防衛機能を有した縄張りの構造をわかりやすく表現している。しかしながら、現状では虎口、通路等の復元は行っておらず、また虎口周辺の樹木が繁茂している状況で、縄張りの構造を伝える環境となっていない。

025 虎口（空堀・橋・土塁）

- ・旧笹浪家住宅側入口から園路を登り、北郭に取り付く部分に虎口が確認できる。
- ・虎口に、空堀・橋・土塁、和人墓が見つかっている。
- ・連続していたと考えられる空堀・土塁を、通路跡が切断しており、虎口であることを示す空間となっていない。遺構の顕在化が求められる。



写真 4-59 空堀・土塁・橋が検出された虎口 025

026 中央通路跡

- ・昭和 45 年（1970）に自然研究路として砂利敷きによって整備を行った。
- ・発掘調査で排水溝を伴う中央通路の遺構を確認しており、現在は草地刈り込みで表現している。



写真 4-60 草刈りで顕在化する北郭の中央通路 026

027 和人墓（土葬・火葬）

- ・虎口周辺に中世～近世の和人士葬墓と中世の火葬施設を確認している。

028 大手空堀（2条）・張芝

- ・大手空堀は、昭和 63 年（1988）から平成 2 年（1990）にかけて芝張り整備を行い、現在も草地として草刈り管理を行っている。



写真 4-61 除草による管理の大手空堀【H1・2 年度整備】 028

029 木橋

- ・環境整備により空堀木橋を復元整備している。
- ・橋の木部に一部老朽化が見られる。



写真 4-62 大手空堀の木橋【H14 年度整備】 029

## Ⅶ 大手 (図 4-6)

分類	地上に表出している遺構	発掘調査で明らかになった遺構・遺物	地形・景観
本質的価値を構成する諸要素	旧道跡、曲輪	<p>■遺構：荒神堂（礎石建物跡）、物見跡、和人墓（土葬）、アイヌ墓、旧道跡、空堀状遺構、掘立柱建物跡</p> <p>■遺物：陶磁器、金属製品、木棺、釘、副葬品（漆器、銅銭他）、陶磁器</p>	<p>■景観：天の川河口、洲崎館跡を望む眺望</p>

### <発掘調査で明らかになった遺構・遺物>

現状では、調査に基づく復元等の整備は行っていない。

#### 030 荒神堂（礎石建物跡）

- ・蠣崎宗家の季広が謀反の罪で殺害した基広の霊を鎮めるために建立した荒神堂の跡地とされる。
- ・発掘調査では、布堀の柵跡、石積の痕跡、二間四方の柵跡、軸の異なる礎石建物を2棟確認している。
- ・天保11年（1840）石積みされた荒神堂跡、階段及び玉垣の礎石が現存するが、3間×3間（柱間寸法3尺）の中世の荒神堂（礎石建物）の遺構の顕在化が求められる。
- ・荒神堂跡周辺に倒木や倒木の可能性箇所、近接する沢沿いに急傾斜や崖地が存在する。倒木を示す看板や柵など、安全性の面からの対策検討が必要。
- ・また、発掘調査では近世であるが天保11年（1840）以前の荒神堂跡及び布堀の柵を検出している。



写真 4-63 荒神堂 030

#### 031 物見跡

- ・荒神堂跡辺りから北東に伸びる尾根筋に4箇所ほどの小さい平場が造成されていることが確認されており、物見としての機能を示す整備が必要である。
- ・下から2段目の平場から物見と想定される建物遺構を確認している。
- ・現在の通路としても利用される旧道から物見への上り口が急になっており、土が削れている。



写真 4-64 散策者の往来によって削れた通路 031

#### 032 和人墓・アイヌ墓

- ・荒神堂～物見周辺に中世～近世の和人墓を確認している。遺体を入れる木棺の木質が付着した和釘が出土している。
- ・中世末～近世初頭の東頭位の仰臥伸展で埋葬される女性のアイヌ墓を確認している。

#### 033 空堀状遺構

- ・旧笹浪家住宅主屋裏で層位や出土遺物から15世紀中頃と考えられる、幅4m、深さ1.2mの薬研堀状の遺構を確認している。

#### 034 掘立柱建物跡

- ・個人住宅の建替え調査で中世～近世にかけての掘立柱建物の柱穴を確認している。

<地形・景観>

035 物見からの眺望

- ・樹木が隙間から洲崎館方向を望むことができるが、眺望確保のため樹木の伐採が必要となっている。



写真 4-65 物見から洲崎館方面を望む 035

(2) 勝山館跡の本質的価値を構成する諸要素と密接に関係する諸要素の現状

<遺構・遺物>

036 石階段・石積

- ・館神八幡宮向かいの掘立柱建物平面表示前および館神八幡宮下に、近世の階段や石積がそのまま地上に露出している。



写真 4-66 館神八幡宮下の石積【S60 年度整備】 036



写真 4-67 館神八幡宮向いの石階段【S60 年度整備】 036

037 夷王山神社

- ・永禄元年（1558）に創立され、医王山頭陀寺（医王山薬師堂）などと言われていた。古くは薬師如来などを祀り、現在は草刈りにより管理を行っている。



写真 4-68 夷王山神社境内 037

038 礎石建物（中世末～近世初頭）

- ・上ノ國八幡宮社務所裏の物見跡としていた1段目の平坦面から、桁行5間（柱間約6尺）の礎石建物の一部を確認している。
- ・礎石の掘り方から中世末～近世初頭の漳洲窯系染付碗が出土している。

### 039 上國寺本堂

- ・上國寺本堂は、江戸時代の記録で永禄3年（1560）頃の建立とされ、室町時代に存在しており、現在の本堂は、内陣天井の支輪に「宝暦八寅年」の墨書があることから、宝暦8年（1758）の建立とされ、現存する寺院建築の建物として北海道で最も古いとされている。
- ・また、当初は真言宗に属していたが、江戸時代中期より浄土宗に改宗され現在に至っている。
- ・平成5年（1993）4月20日に国の重要文化財に指定されており、平成20～23年度（2008～2011）に文化庁の国庫補助事業で半解体修理を行い、内陣が最も整備された明和6年（1769）の姿に復原している。
- ・境内地は、庫裏（兼住宅）、山門、墓地からなり、歴史の道（西側ルート）の入口となっている。

### 040 上ノ國八幡宮本殿

- ・本殿は元禄12年（1699）の建立で北海道内に現存する神社建築では最古に属する。
- ・文明5年（1473）武田信広が勝山館内に館神として創建した社（本質的な価値である020館神八幡宮跡）で、明治9年現在地に本殿を遷し、若宮社を合祀している。
- ・松前家13代道広、14代章広の書が社宝として伝えられているほか、福井県特産の笏谷石製の狛犬が設置されている。
- ・上ノ國八幡宮境内地は、参道、鳥居、拝殿、狛犬、石燈籠、御手水舎、社務所、御輿倉、旧御輿蔵、石碑、石積擁壁からなる。
- ・裏手の沢沿い法面に土砂崩れが見られ、平成20年（2008）に史跡の国庫補助で法面保護の整備を行った。



写真 4-69 上國寺本堂 039



写真 4-70 上ノ國八幡宮拝殿 040

### (3) 勝山館跡の史跡の保存・活用のために復元・設置した諸要素の現状

#### I 動線の現状と課題

##### ① 過年度計画における動線設定の概要

平成 11 年度 (1999) 策定の『史跡勝山館跡等整備基本計画』で設定した動線 (園路・広場・駐車場) の整備方針と基本計画は以下のとおりである。

##### 整備方針

- ・それぞれの部分を結ぶ通路は重要な要素であり、どのように曲輪に入るかによって、空間の感じ方も変わってくると思われる。そのため、できるだけ中世の通路を確認しながら整備し、園路として活用する。

##### 基本計画

- ・勝山館跡を訪れた人が北郭、主郭、東郭、墳墓群、夷王山と興味を持って回れるよう園路を整備し、要所に広場を設ける。
- ・単線的な園路ではなく、回遊性を持たせ歩きながらにして地形が読み取れる園路とする。
- ・メインルート、サブルートを設定する。
- ・館跡内は地形に起伏があるため、安心して休める場を創出する。
- ・来訪者の起点となる北側と南側に導入広場を設ける。
- ・駐車場は、北側、南側の 2 カ所に駐車場を設ける。

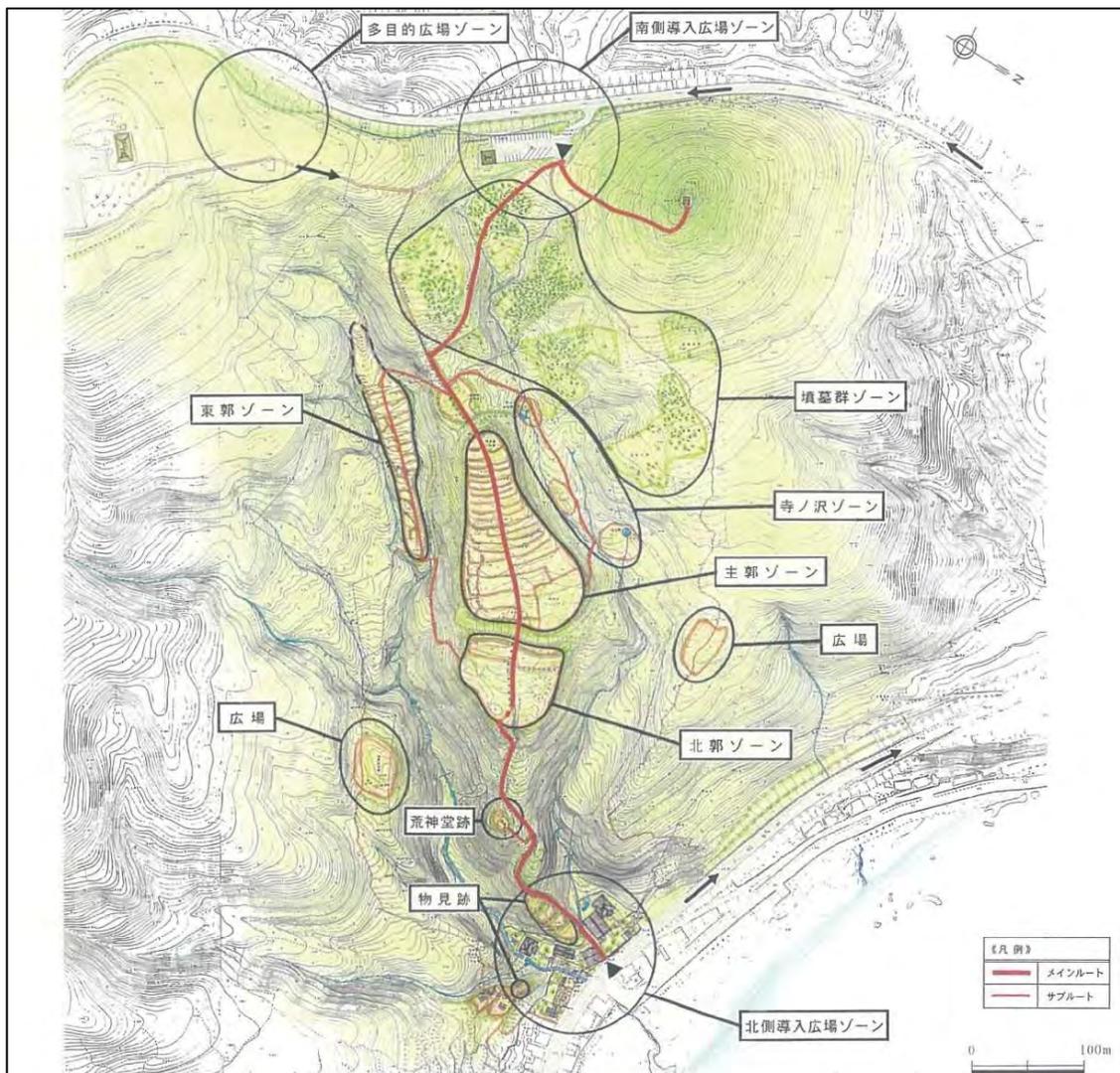


図 4-7 園路・広場計画図 (平成 11 年度 史跡勝山館跡等整備基本計画報告書より)

## ②歩行者動線（図 4-8）

現状の歩行者動線は、主郭を通り南北を繋ぐメインルートを整備し、活用されている。一方で、東郭ゾーンおよび寺の沢ゾーンを周遊するサブルートや西側ルート（歴史の道）は、草木が繁茂し、倒木があるなど管理しておらず、一般の来訪者が気軽に利用できる状況とはなっていない。そのため、来訪者が同じルートを往來する単調な動線となっている。

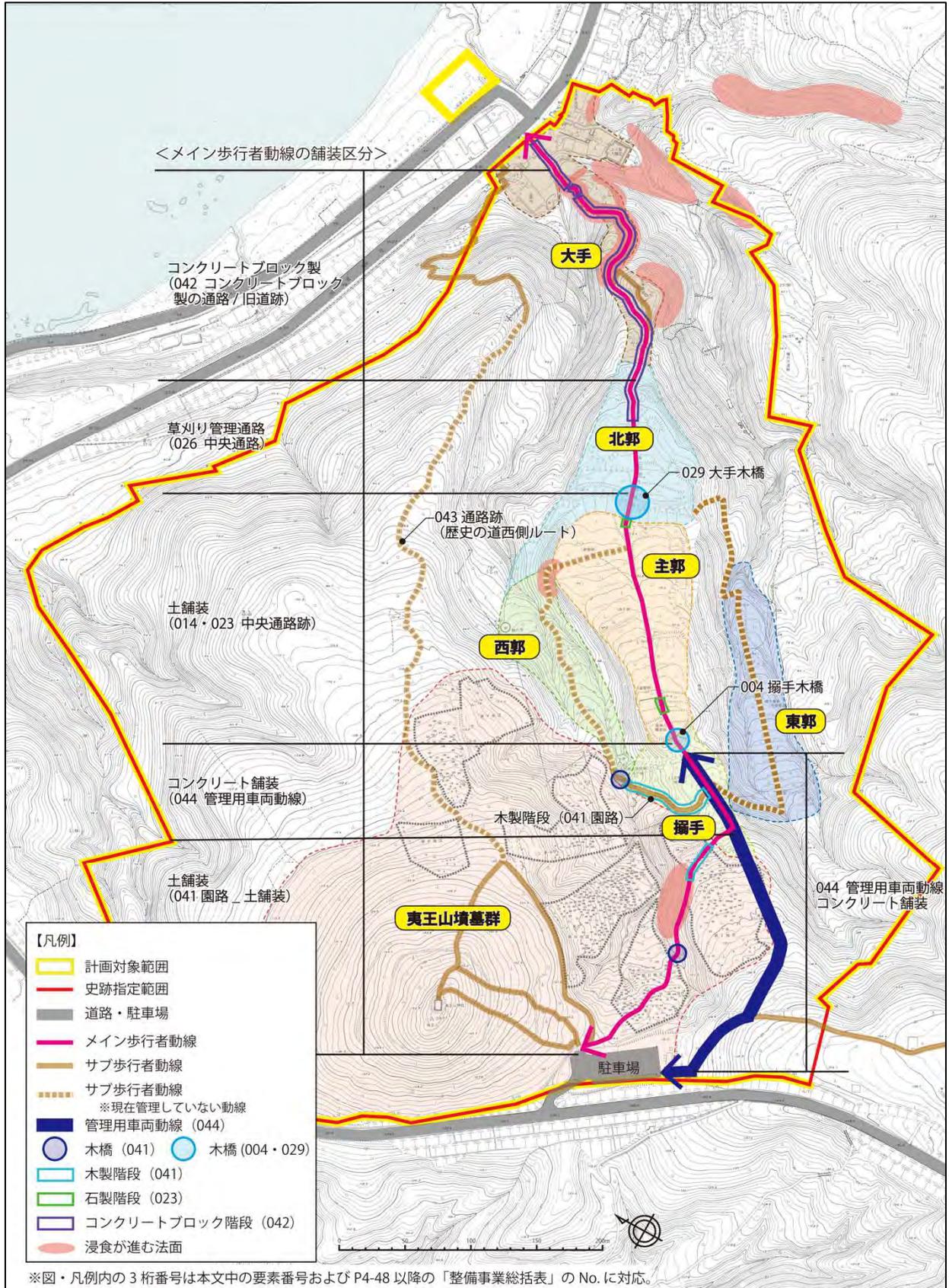


図 4-8 動線の現況図

## 041 園路

### - 土舗装

平成 13 年度 (2001) に整備した、勝山館跡ガイダンス施設脇の駐車場に接続する土舗装の散策路や、アイヌ墓横の木と土舗装による階段は、老朽・腐朽が進み、危険な箇所もある。

### - 木製階段

寺の沢用水施設へ降りていく園路には、木製階段 (丸太ステップ) を整備しているが、水はけが悪く腐食が進んでいる。

### - 木橋

沢を渡る部分に、木橋を架けているが、木橋の腐朽が進んでいる。



写真 4-71 腐食・破損が目立つ階段【H13 年度整備】 041



写真 4-72 劣化・破損が進んだ散策路【H13 年度整備】 041



写真 4-73 腐食が進む木製階段 (丸太ステップ)【S58 年度整備】 041



写真 4-74 寺の沢を渡す橋【S58 年度整備】 041



## 042 コンクリートブロック製の通路

国道の上り口から大手の物見跡・荒神堂跡・虎口では、館盛行時と館廃絶後の通路跡が確認でき、現在も通路として使われている。通路は、昭和 45 年度 (1970) にコンクリート製のブロックを並べて整備しているが、ブロックのズレや土部分の窪みが進んでいる。

また、園路両側の法面が降雨などにより浸食されている。



写真 4-75 老朽化が進むコンクリートブロック製の通路【S45 年度の史跡指定前に設置】 042

### 043 通路跡（歴史の道西側ルート）

上國寺本堂の墓地を抜けて夷王山に至るルートは、江戸時代から松前藩の藩主や家臣が往来する間道として利用されていた。平成8年度（1996）に「福山街道」として「歴史の道百選」に選定されているが、サインの未設置や支障立木などにより散策が容易でない。



写真 4-76 園路沿いには倒木が見られる 043



写真 4-77 通路跡沿い 043

### ③管理用車両動線（図 4-8）

館の維持管理作業を行うための車両は、ガイダンス施設前の駐車場東側から、搦手までしか行けず、広大な史跡指定地内の維持管理を行う上で、作業上の負荷が大きい状況となっている。

また、道路の幅員が狭く、かつ、遺構を守るために表層から立ち上がる形で舗装を敷設していることもあり、傾斜となっているカーブの部分で脱輪したり、普通車の場合、車体が道路に擦ったりしやすいなど、維持管理作業をする上で不便な状況となっている。



写真 4-78 管理用道路の入口部分（駐車場より） 044



写真 4-79 管理用道路【S54 年度設置】 044

## II エントランスの現状と課題

勝山館跡を見学する際の入口として、南側および北側の2カ所をエントランスとして整備している。南側エントランスには、アスファルト舗装の駐車場（一般車両30台、大型バス5台）、トイレ（昭和63年度（1988））、ガイダンス施設（平成15年度（2003）竣工）を整備している。

トイレは町費で建設しているが、和式でバリアフリー化が進んでいないことやすぐ詰まるなど利用上の不具合が指摘されている。

北側エントランス脇には、重要文化財旧笹浪家住宅主屋と附属土蔵及び米蔵・文庫蔵があり、米蔵・文庫蔵がガイダンス施設として平成14年度（2002）に整備している。平成20年度（2008）には、上ノ國八幡宮社務所の国道側をエントランス小広場として整備し、石垣改修などを行っている。

旧笹浪家住宅主屋と国道を挟んだ海側に、駐車場とトイレを平成22年度（2010）に整備している。

勝山館跡へ至る北側エントランスの上り口は、神社と寺の間を流れる水路沿いにあり、入口部分に誘導標識を設置しているが、標識が目立たないため来訪者が分かりにくい状況となっている。



写真 4-80 ガイダンス施設前駐車場（南側エントランス）【S63 年度設置】 045



写真 4-81 勝山館跡ガイダンス施設横のトイレ  
【S63 年度設置】 046



写真 4-82 旧笹浪家住宅向かいの駐車場・トイレ  
【H22 年度整備】 047



写真 4-83 北側エントランスの上り口【H20 年度】 048



写真 4-84 米蔵・文庫蔵【H14 年度整備】 049

※写真キャプション後方の3桁番号はP4-48以降の「整備事業総括表」のNo.に対応。

### Ⅲ サイン・説明施設等の現状

現在設置しているサイン・説明施設は、昭和52年度（1977）策定の『史跡上之国勝山館跡・花沢館跡保存管理計画書』、昭和60年（1985）の『環境整備実施設計書』、平成11年度（1999）策定の『史跡勝山館跡等整備基本計画』に基づき、順次整備を進めている。以下に、各々の計画における整備方針を整理する。

#### ①過年度計画におけるサイン・説明施設等の整備方針の概要

##### 昭和52年度『史跡上之国勝山館跡・花沢館跡保存管理計画書』

遺跡や伝説地等の位置を示す標識は、雪を考慮した頑丈な構造で、単純で素朴、統一的なものとし、一方で、伝説地やすでに姿を消した遺跡の標識は、石碑とするなど、文化財の代わりとなるような独自のデザインとすることが望ましいとしている。

##### 昭和59年度『環境整備実施設計書』

サイン・説明施設等として、以下の4種類を掲げ、素材は、遺構と一体に設置するものは御影石、その他は木製とすることを定めている。

- ・案内板—各遺跡の位置と道順を地図に示す
- ・誘導指示板—園路の要所において各遺跡の方向を示す
- ・説明板—各遺跡の歴史的意味等を解説
- ・表示板—遺構の近くに設置し名称を示す

##### 平成11年度『史跡勝山館跡等整備基本計画』

以下の整備方針、整備内容に基づき、勝山館内の主な案内・説明は、導入広場のガイダンス施設で行い、特徴的遺構等については、適宜遺構説明板を設けることとしている。

##### <整備方針>

- ・説明内容は小学生高学年程度を対象とし、文章、絵図、写真等を用いて分かり易くまとめる。
- ・説明板は見やすく色落ちが少なく耐久性に富む陶器板を使用する。
- ・案内・説明施設も景観を阻害しない統一したデザインとする。
- ・現在設置している遺構説明板は、ステンレス製で文字・図が見え難くなっており、将来的には取り換える必要がある。
- ・史跡指定地内の移動をスムーズに行うために順路等の表示が必要である。

##### <整備内容>

- ・総合案内施設—総合案内施設では、歴史概要、勝山館の遺構、発掘調査概要、出土遺構、遺物、周辺遺跡分布等の情報を来訪者に提供する
- ・遺構説明施設—各郭、復元建物や遺構の解説をし、遺構の内容について説明する。説明板は遺構に則し来訪者が遺構と見比べられる位置に設置する。
- ・順路標—史跡地内の位置及び目的地を示し、順路を案内する。主に通路跡や各郭入口に設置し、分岐点など順路が分かりづらい箇所に適宜設置する。

#### ②サイン・説明施設等（図4-9）

勝山館跡のサイン等は、先に述べた過年度計画に基づき、昭和54年（1979）から平成22年度（2010）の事業期間で、順次整備を行っている。

史跡内に整備しているサイン・説明施設等の種類は、「史跡標柱」、史跡内の遺構位置と順路を示す「総合案内サイン」、園路の要所において各遺跡の方向を示す「誘導サイン（誘導指示板、順路標）」、遺構の名称を示す「表示サイン（表示板）」、各遺跡の歴史的意味等を解説する「説明サイン（説明板、遺構説明、遺構説明施設）」の5種類である。それぞれのサインは、整備年代によって、素材・表現方法等が変わっている。

また、ガイダンス施設内には、勝山館跡全体の遺構を解説する「ジオラマ模型」を設置している。種類別に、サインの仕様、整備年代等を整理する。

<p>写真 4-85 史跡標柱 050</p>	<p>写真 4-86 総合案内サイン：各遺跡の位置と道順を地図に示す 051</p>	
 <p>「史跡上之国館跡のうち勝山館跡」を明示する標柱が南側エントランスに設置している（平成 21 年設置）。裏面には「昭和五十二年四月十二日指定」と記載がある。</p>	 <p>北側エントランスの駐車場のみに設置している（平成 22 年設置）。コンクリート製の支柱にステンレス樹脂コーティングによる表示面。</p>	
<p>写真 4-87 誘導サイン（誘導指示板、順路標）：園路の要所において各遺跡の方向を示す 052</p>		
 <p>上ノ國八幡宮で設置した山頂へ誘導するサイン（平成 30 年度設置）。</p>	 <p>平成 11 年度『史跡勝山館跡等整備基本計画』に基づき設置した木製タイプ（平成 17～19 年度設置）。</p>	 <p>平成 11 年度『史跡勝山館跡等整備基本計画』に基づき町費で設置したスチール製タイプ（平成 29 年設置）。</p>
<p>写真 4-88 表示サイン（表示板）：遺構の近くに設置し名称を示す 053</p>		
 <p>昭和 59 年度の『環境整備実施設計書』に基づいて設置している表示サイン。白御影石に彫り込みで遺構の名称を刻印する。</p>	 <p>平成 11 年度の『史跡勝山館跡等整備基本計画』に基づいて設置している表示サイン。黒御影石に遺構名称を印刷したアルミプレートを取り付ける（平成 14 年設置）。</p>	

※写真キャプション後方の 3 桁番号は P4-48 以降の「整備事業総括表」の No. に対応。



**1. 昭和 50 年設置サイン**  
伝説を解説する説明サイン（町費で設置）。コンクリート基礎に木製。墳墓群第一地区にも基礎なしの同タイプのもを設置している。いずれも老朽化が進んでいる。



**2. 昭和 60～63 年度設置サイン**  
昭和 59 年度に『環境整備実施設計書』に基づいて設置しているタイプ。黒御影石（パーナー仕上げ）製。板面は、ステンレス板に文字を彫りこんで、文字を黒色に着色する。



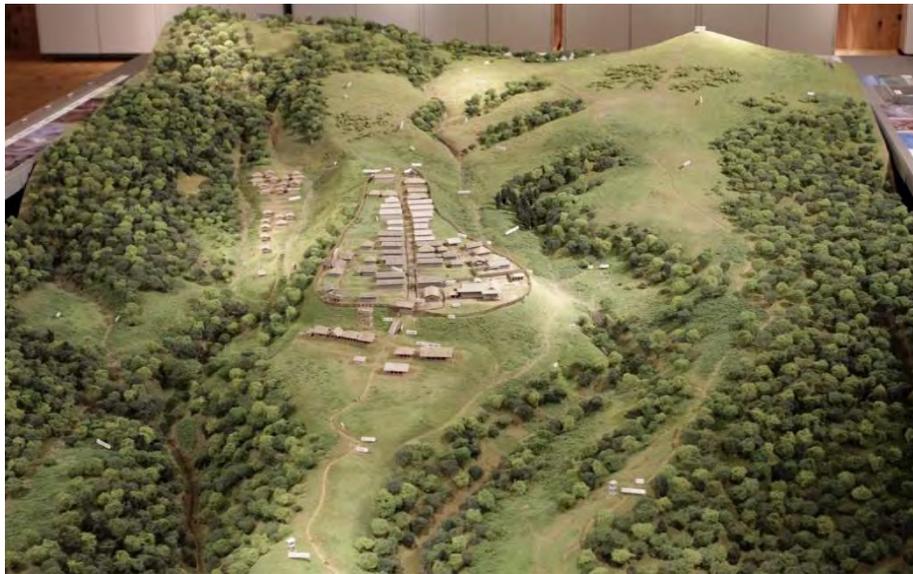
**3. 平成 19 年度設置サイン**  
昭和 59 年度に『環境整備実施設計書』に基づいて設置しているタイプの板面を平成 19 年度に更新。黒御影石（パーナー仕上げ）に耐候性ポリカ+インクジェット印刷による表示面。



**4. 平成 17～18 年度設置サイン（2 本支柱）**  
平成 11 年度『史跡勝山館跡等整備基本計画』に基づき設置しているタイプ。遺構配置を示す。黒御影石支柱にステンレス樹脂コーティング表示面。



**5. 平成 17～18 年度設置サイン（2 本支柱）**  
平成 11 年度『史跡勝山館跡等整備基本計画』に基づき設置しているタイプ。遺構内容を説明している。左記と同デザインで、支柱が 1 本のタイプ。



ガイダンス施設内に設置したジオラマ模型（平成 15 年制作）。周囲に、ジオラマ模型と連動して、各遺構についての説明を展開している。

※写真キャプション後方の 3 桁番号は P4-48 以降の「整備事業総括表」の No. に対応。

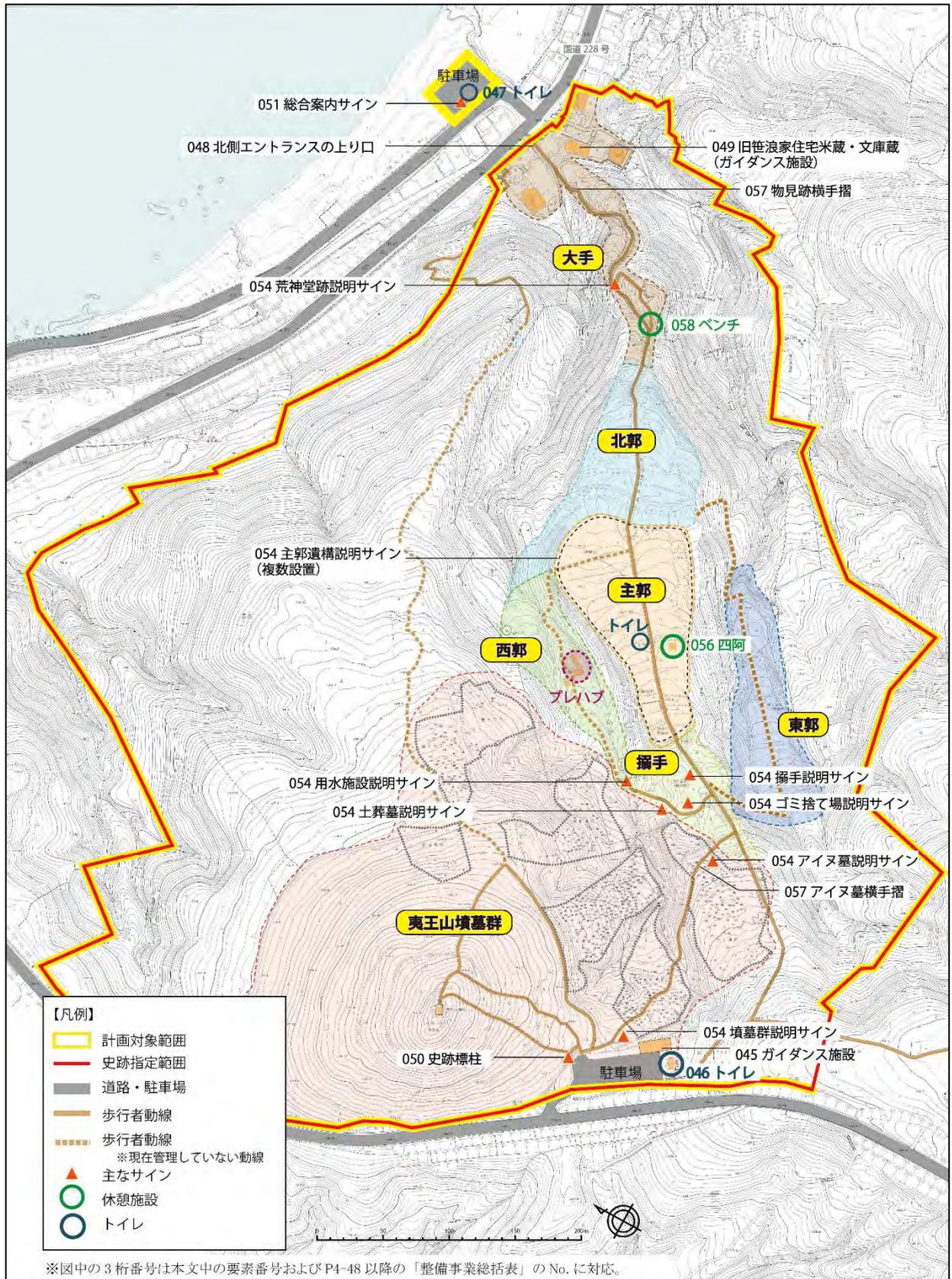


図 4-9 勝山館跡内のサイン・その他便益施設等の現況図

#### IV その他の便益施設の現状と課題（図 4-9）

##### 056 四阿

主郭（客殿周辺）の休憩・滞留施設として、テーブル・ベンチ付きの四阿を整備しているが、四阿の老朽化および、樹木が茂り、眺望が悪いとともに暗い雰囲気となっている。



写真 4-91 主郭に位置する四阿 老朽・腐朽が進んでいる【S62 年度整備】 056

##### 057 手摺

傾斜が急なアイヌ墓横の階段部分には平成 14 年度（2002）、大手の物見跡横の階段部分には平成 21 年度（2009）に、ステンレス鋼製の手摺を整備している。

##### 058 ベンチ

休憩・滞留施設としては、荒神堂跡付にベンチ 1 基（町費）を整備しているが、老朽化が進んでいる。



写真 4-92 大手物見跡横のステンレス製の手摺【H21 年度整備】 057



写真 4-93 老朽化が進んだベンチ【S50 年度整備】 058

## V その他の諸要素の現状と課題

### <自然環境>

#### ・イタヤカエデ・ミズナラの広葉樹林帯

史跡指定内は、イタヤカエデやミズナラの広葉樹林帯が広がっている。

#### ・トドマツ、スギ、ヤマブドウ、ワサビ、ナシ、エゾシカ

指定地内には、トドマツ、スギ、ワサビ、ナシが見られる。また、大型陸上動物としてヒグマやエゾシカも生息している。ヤマブドウも見られ、植物観察だけでなく味覚としても楽しむことができる。



写真 4-94 エゾヤマツツジ

#### ・ツツジ、山野草、ワラビ、キトビロ

夷王山周辺ではツツジの他、キトビロ、ワラビなどの山野草、グミなどが見られ、植物観察や味覚を楽しむことができる。



写真 4-95 エゾサンショウウオ

#### ・ヒバ（樹齢約 80 年）、トドマツ、スギ、エゾサンショウ、ウウオ

西郭の寺の沢用水施設周辺には、直径 1 m 前後のヒバが見られ、令和元年（2019）9 月に行ったコア標本を採取した調査では、樹齢が約 80 年と分かっている。戦後に植林したトドマツやスギが見られ、エゾサンショウウオが生息している。

#### ・サンショウ、ミツバ、ヒグマ

華の沢倉庫群では、サンショウやミツバが見られる。また、ヒグマのフンなどが多く確認される。



写真 4-96 ヤマブドウ

#### ・ヤマブドウ、ブタナ、サクラ

主郭では外来種が繁茂し、ブタナが優先する。樹木では、植林されたサクラが見られる。また、ヤマブドウも見られ、植物観察だけでなく味覚としても楽しむことができる。

#### ・山野草（エゾエンゴサク）、オンコ、フジ、トリカブト

大手周辺では、散策路沿いに巨大なオンコ（樹齢 170 年以上）やフジを確認できるが、頭上にツルが垂れ下がるなどしているため、安全の確保が必要である。林床では、エゾエンゴサク、キクザキイチゲ、エンレイソウなどの春の植物の他、夏に咲くトリカブトも楽しむことができる。



写真 4-97 エゾエンゴサク

## <工作物>

### ・トイレ、水道

主郭（客殿周辺）には、過年度に実施した主郭における発掘調査の際に使用していた仮設トイレ（汲み取り式）と水道を設置している。

### ・プレハブ

寺の沢用水施設から主郭客殿脇につながる通路沿いでは、ヒバや鶴の池を確認できるが、調査時のプレハブを残しているなど、環境整備が必要となっている。

### ・コンクリート張り水路（宮の沢・寺の沢）、上下水道、配電線支持物、防火水槽、地中電線ケーブル、旧笹浪家住宅、上ノ國八幡宮社務所・境内地、上國寺庫裏

国道に面した大手（町屋）周辺では、宮の沢・寺の沢のコンクリート張りの水路や旧笹浪家住宅、上ノ國八幡宮社務所、上國寺庫裏などの工作物が多く点在している。



写真 4-98 主郭のトイレ【H5年設置】



写真 4-99 草木が生い茂り廃墟となったプレハブ【S63年設置】



写真 4-100 コンクリート張りの宮の沢

#### (4) 勝山館跡の整備の課題

ここでは、勝山館跡の整備の現状を踏まえ、これまでの整備の良好であった点や課題点を総括する。

##### ①資材

木材や土舗装は凍結融解に伴う劣化が多く、今後の整備及び再整備では耐久性を十分に検討の上、選択をする。さらに、木材では地面と接する箇所が痛みが著しいため、地面との設置部分に銅板を巻くことや擬木の選択を考慮する必要がある。

石材は昭和60年(1985)の整備事業当初に施工したものでも良好に残存しているため、寒冷地に適した材料であることがわかる。

##### ②手法

復元整備は、山城を体感する空堀や柵で行っており、周囲から防御する中世城館のイメージをわかりやすく伝えているため、今後も踏襲していく必要がある。

平面表示は、本来木造の建物や板塀等を耐久性を考慮して石材で表現している。このような石材による平面表示は、歴史的背景をあまり理解していない子どもや外国人に対し、石で造られた建物などと誤った認識を与える可能性もあるため、使用に際してはサイン等で情報を適切に補う必要がある。

植栽整備では、搦手空堀を地被植物で示しているが、溝状に窪む遺構を枝が太く大きい植栽で表現しているため、空堀と認識することが難しい。さらに、伐採や伐採後の運搬処理など維持管理において負担が大きく、今後の植栽整備では十分な検討が必要である。

一方、墳墓の植栽整備は、多年草の草本類で示している。草本類は、維持管理も軽微で、遠目からでも遺構を認識することができ、良好な整備手法となっている。

##### ③維持管理

史跡内の維持管理は、毎年の除草や支障立木の撤去等を町が委託した高齢者団体が主に行っている。管理車両の進入できる箇所が搦手までとなっているため、機材の運搬を人力で行わなければならない、主郭(客殿周辺)、北郭、大手などで行う作業の負担が大きくなっている。

適切な史跡の維持管理を行うためにも作業負担を軽減する管理用道路の整備が不可欠である。

これまでの整備における耐久性と機能性について評価し、現状が良好な場合について「○」、資材や仕様など改善が必要な場合は「△」、資材や仕様などを含め、抜本的な変更の必要があるものは「×」とし、それらを踏まえ、今後の維持管理、整備及び再整備で必要となる対策について、表4-4「勝山館跡 整備事業総括表」に示した。

表 4-4 勝山館跡 整備事業総括表

種別	遺構・遺物 による区画	No.	整備した 遺構他	整備 年度	これまでの整備手法	
					手法/材料等	詳細
本質的価値を構成する諸要素等	夷王山墳墓群	001	和人墓・アイヌ墓	S58	遺構表示/墓標杭	墳墓を明示するため、墓番号を付した杭を墳墓上に設置。
	搦手	004	木橋	H13	復元整備/木	搦手側に空堀を渡る木橋を復元整備している。
		004	空堀	S58	平面表示/植栽	2条の空堀を埋め戻し、空堀の位置に地被植物を植栽して表現している。
		005	ゴミ捨て場(貝塚)	S58	平面表示/木	ゴミ捨て場の範囲を丸太杭で45cm間隔に打ち込んで表現する。
		006	和人墓	S58	平面表示/植栽	丸太杭で墓壇の輪郭をあらわし、内部にグランドカバーであるアジュガ(外来種)を植栽している。
		007	柵列跡	H22	復元整備/木	搦手側に柵を復元整備している。
	西郭(寺の沢用水施設)	008	井戸跡、木樋	S61	復元整備/木	水を供給する場所を復元遺構で表示。
		008	貯水池	S61	復元整備/掘削	水を供給する場所を復元遺構で表示。
	東郭	009	掘立柱建物跡・地割	未整備	-	倒木やヒグマの出没があり、立ち入り制限が必要なエリアとなっているため、未整備箇所となっている。
	主郭(客殿周辺)	010	物見跡	未整備	-	主郭の正面から東隅に物見跡が見つかったが、未整備となっている。
		011	柵列跡	H14	復元整備/木	大手側に柵・木橋を復元整備している。
		012	馬屋	H15・16	平面表示/石	馬を飼育していた建物を平面表示している。
		013	井戸跡	H15・16	平面表示/石	客殿専用とされる井戸は、立ち上りの石で平面表示され、井戸の穴は円形の石で表現している。

評価				
耐久性	機能性		必要な対策	
×	墓番号を記したプラスチック製のプレートが草刈り等で破損している。	△	遠目から墳墓と認識しやすいが、杭が目立ちすぎることによって当時の景観イメージと異なる。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・プラスチックのプレートを破損しない素材へ変更。</li> <li>・園路付近は杭を撤去し、盛土を行い、当時の景観に近い状態で顕在化する。</li> <li>・配石遺構の表示がないため、整備で顕在化させる。</li> </ul>
○	橋の木部の一部に腐朽が見られるが、構造部分は維持されている。	○	当時に近い姿で遺構を伝えている。	現状を維持する。
○	環境に適応し、枯れることなく成長している。	×	植栽が周辺遺構の眺望を阻害している他、遺構のイメージが伝わっていない。	植栽を撤去し、園路から搦手の遺構を見通せるようにする。
△	乾燥による収縮で丸太が劣化をしている。	△	範囲として認識できるが、表現内容が伝わりにくい。	丸太杭の素材を検討し、範囲について貝塚をイメージした色で表現する。
△	経年により植栽植物が消失し、目立たなくなっている。	○	春に紫色の花が咲き、遠目からも認識できる。	土葬墓の植栽を維持管理しやすい品種に変更する。
○	地面と接する木部に一部腐朽が見られるが、構造部分は維持されている。	○	主郭の搦手を固く守っていたことを認識することができる。	防腐処理などの適切な維持管理が必要である。
△	木樋、井戸枠、木橋が寺の沢の流水によって、腐朽している。	×	周辺がぬかるみ、近づくことができない。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・水に強い素材へ変更する。</li> <li>・排水対策をした園路の整備。</li> </ul>
○	池の形状を保っている。	×	池に土砂が堆積し、雑草が繁茂するなど池と認識しにくい。	寺の沢への排水対策を行い、池の土砂を除去する。
	—	△	安全の確保ができず、現地に足を運びづらい状況となっている。	支障立木を撤去し、主郭からの見通しを確保するなどの環境整備が必要である。
	—	△	物見跡に関する復元等の整備は行われておらず、堅固な主郭の姿と異なっている。	効果的な整備方法を検討し、整備で明示する。
○	地面と接する木部に一部腐朽が見られるが、構造部分は維持されている。	○	主郭の大手を固く守っていたことを認識することができる。	防腐処理をするなど適切な維持管理が必要である。
○	周辺の土舗装に割れ等がみられるが、柱を表現した石材は維持されている。砂利を敷設した箇所は防草マットの劣化によってスギナが繁茂しやすい環境となっている。	△	柱を表現している石が柱と認識しづらいため、建物跡のイメージが難しい。	柱を表現する石、建物範囲を示す砂利及び建物周辺の土舗装の仕様や素材の変更を検討する。
○	適切に維持されている。	○	井戸は安全面を考慮して、穴をふさいでいる。	現状を維持する。

種別	遺構・遺物による区画	No.	整備した遺構他	整備年度	これまでの整備手法	
					手法/材料等	詳細
本質的価値を構成する諸要素等	主郭 (客殿周辺)	014	中央通路跡	H17	中央通路/土舗装 排水溝/木	発掘調査で確認された幅3.6mの中央通路を復元整備している。
		015	排水溝跡	H17	排水溝/木	発掘調査で確認された幅3.6mの中央通路に付属する両側の排水溝を復元整備している。
		016	庭跡	H15・16	平面表示/石	枯山水と思われる庭の遺構を砂利や石で表現している。
		016 ・ 017 ・ 019	掘立柱建物跡 (客殿・重臣の住居・蔵・倉庫・鍛冶鑄造跡)	H15・16	平面表示/石	建物の平面表示によって往時の遺構の広がりを感じられる空間となっている。前回の整備計画で復元整備2棟が検討されているが、維持管理経費の観点から行われていない。
		019	板塀跡	H15・16	平面表示/石	板塀は、柱を表現した石を細長い石で繋ぎ、平面表示している。
		018	櫓門跡	H19	平面表示/石	中央通路の側溝より新しい大型の柱穴が確認され、櫓門として平面表示をしている。
	主郭 (館神八幡宮周辺)	020	館神八幡宮 (創建当初)	S60	平面表示/石	文明5年(1473)に創建された館神八幡宮の平面表示を石及び砂利で行っている。
		020	館神八幡宮 (本殿覆屋)	S60	平面表示/石	元禄12年(1699)に建替えられた館神八幡宮の平面表示を石及び砂利で行っている。周辺の土塁(近世)は、現地形を踏襲している。
		021	掘立柱建物跡	S60	平面表示/石	神社跡周辺の掘立柱建物を石及び砂利で平面表示している。
		022	柵列跡	S60	平面表示/石	御影石の縁石と砂利で柵列を表現している。
		036	石階段・石積	S60	遺構露出	近世の石積や石階段をそのまま地上に露出している。
	主郭	024	中央通路からの眺望	未整備	-	主郭(客殿周辺)の下方からは、洲崎館方向や日本海を一部望むことが出来る。
	北郭	025	虎口(空堀・橋・土塁)	未整備	-	空堀・土塁・橋の検出によって虎口であることが確認され、未整備となっている。

評価				
耐久性	機能性		必要な対策	
×	土舗装のヒビ割れが目立つ。通路中央の木製杭が乾燥による収縮で破損がみられる。	△	中央通路の遺構を適切に伝えている。中央通路の遺構を適切に伝えている。	中央通路の維持管理や安全性を考慮した構造・素材等を検討のうえ、再整備が必要。
×	排水溝の側板を押さえるステンレス製の釘や木製杭が乾燥による収縮で破損がみられる。	△	復元整備された排水溝の遺構を適切に伝えているが、腐食や木のめくれ、釘の外れが目立つ。	排水溝の維持管理や安全性を考慮した構造・素材等を検討のうえ、再整備が必要。
○	適切に維持されている。	○		適切な維持管理が必要である。
○	周辺の土舗装に割れ等がみられるが、柱を表現した石材は維持されている。砂利を敷設した箇所は防草マットの劣化によってスギナが繁茂しやすい環境となっている。	△	<ul style="list-style-type: none"> <li>柱を表現する石が目立たないので、建物のイメージが難しい。また、館神八幡宮周辺の建物と表現方法が統一されていないため、柱と理解しにくい。</li> <li>建物の密度感や掘立柱建物以外の堅穴建物、礎石建物を表現できていないため、建物全体の様相を伝えてきていない。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>柱を表現する石、建物範囲を示す砂利及び建物周辺の土舗装の仕様や素材の変更を検討する。</li> <li>礎石建物、堅穴建物の効率的な整備手法を検討し、整備で明示する。</li> </ul>
○	適切に維持されている。	△	石で表現される板塀は、意図が伝わりづらく、本来区画されていた客殿の空間がわかりにくくなっている。	板塀を表現する石の仕様及び素材の変更を検討する。
○	適切に維持されている。	×	櫓門の場所について疑問を持たれることが多い。近世の絵図や古文書より鳥居である可能性が高い。	遺構の検討をし、櫓門跡の表記を鳥居跡に変更もしくは撤去する。
○	適切に維持されているが、防草マットの劣化によりスギナが繁茂しやすい。	△	遺構の柱の表現がわかりづらく、建物のイメージが難しい。	周辺の柱列の確認により、遺構配置の再検討を行う。
○	適切に維持されている。	△	礎石がわかりづらく、建物跡のイメージが難しい。中央通路より低い位置に所在している。	遺構の復元年代を中世とする中で江戸期の遺構表示となっており、整備年代の違いに対する整理が必要である。
△	適切に維持されているが、防草マットの劣化によりスギナが繁茂しやすい。	△	遺構の柱の表現がわかりづらく、建物のイメージが難しい。中央通路より低い位置に所在している。	社寺関係の建物の可能性があるため、今後、詳細な調査・検討が必要である。
○	適切に維持されている。	×	柵と認識できない。	排水溝の遺構の可能性があるので、再検討し、再整備を行う。
×	石階段は周囲の土が流れ、ズレが生じて原位置を保っていない。	△	階段として認識できるが、その前後の遺構配置が不明となっているため、何のための階段かわかっていない。	性格不明であるが、社寺関係の建物の可能性があるため、今後、詳細な調査が必要となっている。
—	—	×	樹木の成長により眺望が阻害されている。	支障立木を伐採し、眺望を確保する。
—	—	×	サイン等の表示もなく、虎口であることを示す空間となっていない。	山城を体感する空堀・橋・土塁の復元整備を行う。

種別	遺構・遺物 による区画	No.	整備した 遺構他	整備 年度	これまでの整備手法	
					手法/材料等	詳細
本質的価値を構成する諸要素等	北郭	026	中央通路跡	未整備	—	北郭から主郭を貫通する通路は、近世に松前藩主や家臣の参道にも用いられていたが、昭和45年（1970）に自然研究路として利用されていた。
		027	和人墓 （土葬・火葬）	未整備	—	中世～近世の和人墓の土葬墓と中世の火葬施設が確認されている。
		028	大手空堀 （2条）	H1・2	復元整備/芝	勝山館跡の主郭を堅固に防御する2条の空堀を整備している。
		029	木橋	H14	復元整備/木	大手側に空堀を渡る木橋を復元整備している。
動線	夷王山墳墓群	041	園路	H13	土舗装	勝山館跡へ誘導する史跡散策で最も多くの来訪者が利用する園路部分である。
	搦手	041	園路	S58	階段・橋/木	寺の沢用水施設へ降りる園路は、木製階段で整備されている。寺の沢用水施設前の寺の沢を渡る木橋が整備されている。
	大手	042	コンクリートブロック製の通路	S45	コンクリートブロック（町費）	国道の上り口から大手の物見跡・荒神堂跡・虎口では、館盛行時と館廃絶後の通路跡が確認され、コンクリートブロックを使用した園路を整備している。
	歴史の道 （西側ルート）	043	旧道	未整備	—	上國寺本堂の墓地を抜けて夷王山に至るルートは、江戸時代から松前藩の藩主や家臣が往来する間道として利用されていた。
	主郭 （館神八幡宮周辺）	023	石階段 （中央通路跡）	H16	階段の設置/石	中央通路の傾斜部分で通行を容易にするための石の階段を設置している。
	夷王山墳墓群～搦手	044	管理用道路	S54	コンクリート	勝山館跡ガイダンス施設周辺から搦手に続く管理用道路が整備されている。
エントランス	南側エントランス	045	勝山館跡ガイダンス施設	H15	木造平屋	勝山館跡ガイダンス施設が指定地内に竣工している。
		046	トイレ	S63	簡易水洗/和式（町費）	ガイダンス施設横にトイレが整備されている。
	北側エントランス	047	トイレ・駐車場	H22	トイレ・駐車場の設置	史跡指定地外の旧笹浪家住宅主屋の海浜部に、駐車場とトイレが町費他で整備されている。
		048	北側エントランス	H20	張芝・石垣改修	上ノ國八幡宮社務所の国道側をエントランス小広場整備として、張芝や石垣改修が行われている。

評価			
耐久性	機能性		必要な対策
	×	雑草地であるため、草刈りの頻度が高い。	周囲の環境に合わせ、ウッドチップ等の自然素材で整備する。
	×	サイン等の表示もなく、遺構の周知がされていない。	現状を維持し、サインで周知する。
○ 適切に維持されている。	△	小橋の位置が整備後の調査で確認された中央通路と異なっている。	小橋の位置を検討し、橋の整備を行う。
○ 地面と接する木部に一部腐朽が見られるが、構造部分は維持されている。	○	主郭部分を固く守っていたことを認識することができる。	防腐処理などの適切な維持管理が必要である。
×	△	凍結融解で土舗装の園路や階段が剥離している。	素材及び仕様を検討した再整備が必要である。
△	×	乾燥による収縮等で劣化がみられる。雨水などで土の移動が生じ、ステップがズレている。	排水処理をし、素材を検討した再整備が必要である。
△	△	・園路として適切に機能している。 ・園路両側の法面が降雨などにより浸食され、土砂が園路に堆積している。	・ブロックのズレは、通常の維持管理で補修。 ・法面は自然環境に配慮し、適切な保護措置を行う。
	×	平成8年度（1996）に「福山街道」として「歴史の道百選」に指定されているが、支障立木などにより散策が容易でない。	散策が困難であるため、現状を維持する。
×	×	土舗装の路盤と石の接続部が石の沈下によって外れている。	階段の仕様変更とスロープの確保を行う。
○ 適切に維持されている。	×	・道路の幅員が狭く、カーブの部分で脱輪する事例がみられ、維持管理作業をする上で不便となっている。 ・普通車は、傾斜が大きい箇所で車体を道路に擦ったりしやすい。	道路幅の確保、ルート及び傾斜を緩くするなどし、管理用車両や福祉車両の往來も可能にした整備をする。
△ 適切に維持されている。	△	・空調管理ができないため、遺物の展示環境として適していない。 ・入口に誘導するサインがないため、わかりづらい。	・遺物の展示を極力行わない。 ・入口に誘導サインを設置する。
○ 適切に維持されている。	×	和式でバリアフリー化が進んでいないことやすぐ詰まるなど利用上の不具合が指摘されている。	多くの人ができる洋式やバリアフリーの仕様へ改修する。
○ 適切に維持されている。	△	国道からの誘導がサインが小さくわかりづらい。	誘導サインの設置を行う。
○ 適切に維持されている。	△	上りルートの入口がわかりづらい。	脱色アスファルト舗装などのルートを目立たせる整備をする。

種別	遺構・遺物 による区画	No.	整備した 遺構他	整備 年度	これまでの整備手法	
					手法/材料等	詳細
ラ ン ス エ ン ト ラ ン ス	北側エン トランス	049	米蔵・文庫蔵	H14	復原/木	ガイドランス施設として、米蔵・文庫蔵（重文）が復 原整備されている。
サ イ ン ・ 説 明 施 設 等	南側エン トランス	050	史跡標柱	H21	石製標柱/石	南側エントランスに史跡の名称を表示する標柱が設 置されている。
	北側エン トランス	051	総合案内板	H22	散策マップ/ステ ンレス・石	駐車場・トイレの付近に散策ルートを図示した総合 案内板が設置されている。
	共通	052	誘導サイン	H17~19	文字（プラス チック）/木	分岐点に誘導サインを設置している。
		053	表示サイン	S59	文字彫り込み/石	遺構名称を表示している。
		053	表示サイン	H14	文字ステンレス/ 石	遺構名称を表示している。
		054- 1	説明板	S50	文字彫り込んで 着色/木	遺構の説明をしている。
		054- 2	説明板	S60~63	説明板：樹脂製/ 石	ステンレス製の説明板に文字や図を彫り込んで遺構 の説明をしている。
		054- 3	説明板	H19	ポリカ+インク ジェット/石	ステンレス製の説明板を樹脂製の説明板に改修し、 遺構の説明をしている。
	054- 4・5	説明板	H17・18	文字ステンレス/ 石	黒御影石支柱にステンレス樹脂コーティングで表示 面を加工し、遺構の説明をしている。	
	南側エン トランス	055	勝山館の 模型	H15	樹脂他	勝山館跡ガイドランス施設内に1/200のスケールで勝 山館跡のジオラマを設置している。
そ の 他 の 便 益 施 設	主郭 （客殿）	056	-	S62	四阿/木	主郭（客殿周辺）の休憩・滞留施設として、テーブ ル・ベンチ付きの四阿が整備されている。
	夷王山 墳墓群	057	-	H14	手摺/ステンレス	アイヌ墓横の散策路は、傾斜が急な階段部分にステ ンレス製の手摺を整備している。
	大手	057	-	H21	手摺/ステンレス	物見横の散策路は、傾斜が急な階段部分にステンレ ス製の手摺を整備している。
		058	-	S50	ベンチ/木 （町費）	荒神堂跡横の散策路に設置したベンチが整備されて いる。

評価			
耐久性	機能性		必要な対策
○ 適切に維持されている。	△	周辺の情報が多く、史跡の情報が不足している。	上りルートに関する解説などの展示内容のリニューアルを行う。
○ 適切に維持されている。	○	史跡名称を適切に伝えている。	現状を維持する。
○ 適切に維持されている。	○	散策ルートについて適切に伝えている。	現状を維持する。
× プラスチックで張り付けた文字が凍結融解などによって剥がれている。	○	散策ルートについて適切に伝えている。	文字の表示に係る仕様を変更して再整備する。
○ 適切に維持されている。	△	文字部分がみづらい。	文字の着色を維持管理の範囲で行う。
○ 適切に維持されている。	○	遺構名称を適切に伝えている。	現状を維持する。
× 乾燥による収縮で基礎部分が劣化している。	○	遺構名称を適切に伝えている。	仕様を変更して整備する。
× 彫り込んだ部分の色が剥離して文字が認識しづらい。	×	ステンレス版が反射して説明が見にくい。	ステンレス版をH18の樹脂製に変更する。
○ 適切に維持されている。	○	適切に遺構の内容を伝えている。	現状を維持する。遺構の再検討で評価が異なった場合は盤面のみ交換する。
○ 適切に維持されている。	○	適切に遺構の内容を伝えている。	現状を維持する。遺構の再検討で評価が異なった場合は盤面のみ交換する。
○ 適切に維持されている。	△	<ul style="list-style-type: none"> <li>全体が一望でき、わかりやすい。</li> <li>新たな調査成果によって、表示内容が古くなっている。</li> <li>表示ランプが全色同じなので、複数人で押したときに混乱が生じる。</li> </ul>	新たに明らかとなった本質的価値等の情報を模型に追加する。
△ 乾燥による収縮で老朽化している。周囲の樹木が茂り、屋根に苔が繁茂している。	×	<ul style="list-style-type: none"> <li>当時の建物と混同される。</li> <li>樹木が茂り、眺望が悪いとともに暗い雰囲気となっている。</li> </ul>	周囲の樹木を撤去し、中世の掘立柱建物に準じた仕様で再整備する。
○ 適切に維持されている。	○	適切に機能している。	現状を維持する。
○ 適切に維持されている。	○	適切に機能している。	現状を維持する。
× 乾燥による割れや雨水による腐朽がみられる。	×	劣化がひどく、腰を掛けて休憩できない。	撤去する。



## ②車

花沢館跡には駐車場がないため、約 250m 離れた花沢公園の駐車場から徒歩で花沢館跡（大手）の入口に至るのが現状となっている。そのため、花沢館跡直下ののんびりお月様公園の一部を駐車場に整備することを検討している。

勝山館跡では、旧笹浪家住宅北側と勝山館跡ガイダンス施設前の 2 箇所に駐車場を整備している。旧笹浪家住宅北側の駐車場は、信号や横断歩道のない国道を渡らなければならないため、館跡側にバスが停車できる駐車場の整備が課題となっている。

洲崎館跡では、神社所有地の空き地を駐車場として利用している。

## ③歩行者動線

徒歩による史跡への出入口は、花沢館跡（大手）、勝山館跡（大手）、勝山館跡（搦手）、洲崎館跡の 4 箇所となっている。

花沢館跡は、国道 228 号沿いからアクセスし「大手」へ至るルートとなっている。

勝山館跡は、以下に示した 4 つの歩行者動線がある。

- ・国道 228 号沿いの上ノ国八幡宮横の沢沿いからアクセスし、勝山館跡（大手）から勝山館跡の主郭を縦貫する上りルート。
- ・国道 228 号沿いの上國寺裏手から歴史の道（西側ルート）を經由して夷王山へ抜ける上りルート。
- ・勝山館跡ガイダンス施設から勝山館跡の主郭を縦貫し、国道 228 号線沿いに下るルート。
- ・勝山館跡ガイダンス施設から主郭へ下り、U ターンして勝山館跡ガイダンス施設へ上るルート。

これらのルートは、夷王山中腹で合流し、八幡牧野を抜けて日本海沿岸の寅の沢へ続いており、歴史の道 100 選の「福山街道」に選定されている。しかし、現在、上國寺裏手から夷王山へ抜けるルートは、草木が繁茂して倒木があるなど、一般の来訪者が気軽に利用できる状況とはなっていない。

## ④誘導サイン

以下に三館への誘導サインの設置状況を整理するが、いずれも国道等からの主要動線上に案内が不足している。

### 【花沢館跡】

事前に誘導するサインを設置していない。国道 228 号沿いののんびりお月様公園前に、館入口方向を指す誘導サインを設置している。

### 【勝山館跡】

勝山館跡（上り口）には事前に誘導するサインを設置していない。勝山館跡（下り口）には国道 228 号から分岐する付近に設置しているが、分岐する直前で把握しづらくなっている。

### 【洲崎館跡】

洲崎館跡の誘導サインはなく、「砂館神社」を国道脇に表示している。

## （２）三館へのアクセスに関する課題

三館へのアクセス方法として、唯一の公共交通機関は定期路線バスである。しかしながら、本数が少ないため、三館を周遊する際は公共交通機関で巡ることが難しい現状となっている。そのため、車移動が最も多いが、花沢館には駐車場が無い状況もあり、アクセス面において、来訪者の利便性の向上が課題となっている。

史跡周辺には、道の駅「上ノ国もんじゅ」（第 3 セクターによる運営）、花沢温泉（町営）、花沢公園などの集客施設が所在しているもののそこから誘導するサインが無く、アクセスが困難となっている。

今後、史跡及びその周辺施設等をつなぐ広域の動線やサイン、移動手段等について検討し、効果的な整備を行うことで史跡へのアクセスおよび三館の周遊を容易にしていくことが課題となっている。

## 2. 史跡上之国館跡の活用の現状と課題

勝山館跡の来訪者の増加に伴い、花沢館跡、洲崎館跡を訪れる山城ファンも多くなっているが、この二館については、サイン等による所在地の明示が乏しいことや史跡の遺構概要を示す説明板がないことから、一般の来訪者には史跡の内容がわかりづらい現状にある。

また、勝山館跡の散策ルートは、国道 228 号沿いからの上りルートより勝山館跡ガイダンス施設から下り、整備を行っている主郭で U ターンする歩行者動線が大半を占めている。

そのため、米蔵・文庫蔵での上りルートのガイダンスを積極的に展開し、未整備である北郭・大手についても本質的価値の顕在化を行うことで史跡全体の主要な遺構を体感できる縦断可能なルートの確立を推進することが必要である。

教育分野では、小・中・高等学校の総合学習の一環として、ふるさと学習や体験発掘などが行われている。小学校の低学年では、史跡に点在する草花や樹木などの自然環境について学習する機会が多く、また高等学校では史跡の素材を使用した「ふるさと歴史カルタ」の製作も行われており、町内の児童・生徒が地域の歴史に触れあう場としての役割を史跡が果たしている。

観光では、毎年 6 月第 3 日曜日に開催される「夷王山まつり」などと連携したイベントが勝山館跡で行われている。三館を連携したイベントとしては、新日本歩く道紀行 100 選（文化の道）として花沢館跡と勝山館跡を繋ぐウォーキングコースが設定され、「天の川と戦国時代の山城を訪ねるみちウォーキング」が行われている。

毎年 7 月第 1 土曜日には、道内や本州のアイヌが中心となって「コシャマイン慰霊祭」が勝山館跡の史跡隣接地で実施されている。この慰霊祭では、アイヌだけでなく共生した和人を含めた慰霊が行われ、互いの交流を深める場としても活用されている。

その他、史跡への来訪者に対する案内業務は、町内の観光協会や観光ガイド団体が連携して携わっているが、人材面での不足が生じており、対応するガイドの育成が急務の課題となっている。



写真 4-101 地元小学生による花沢館跡での発掘体験



写真 4-102 勝山館跡を素材にした地元高校生のふるさと歴史カルタ



写真 4-103 天の川と戦国時代の山城を訪ねるみちウォーキング



写真 4-104 勝山館跡でのアイヌ慰霊祭

### 3. 文化財保存活用施設の現状と課題

文化財の保存活用施設として、上之国館調査整備センター、重要文化財旧笹浪家住宅、勝山館跡ガイダンス施設の3つが所在している。

公開活用は、勝山館跡指定地内に立地する勝山館跡ガイダンス施設、重要文化財旧笹浪家住宅附属米蔵・文庫蔵の2施設で主に行っている。

勝山館跡ガイダンス施設(307.2㎡、H17年度開館)は、指定品以外の史跡から出土した遺物や勝山館跡の全体模型・墓のレプリカなどを展示する。重要文化財旧笹浪家住宅附属米蔵・文庫蔵(50㎡、H16年度開館)では、勝山館跡廃絶直後の時期の宮の沢川両岸で出土した遺物を中心に展示している。両施設は、開設から約15年を経過し、展示内容が近年の調査成果や多言語化に対応していないこと、さらに文字による説明が多く、歴史的な背景を熟知していない外国人や子どもの理解が難しいことなどから展示内容の更新が必要となっている。

特に、米蔵・文庫蔵は勝山館跡の上りルートの入口に所在するため、勝山館跡主郭への上る動機付けを行う展示も必要となっている。

開設期間は、いずれも4月第4土曜日～11月第2日曜日で冬期間は路面凍結や地吹雪による交通障害の恐れがあり閉鎖している。

平成20年(2008)7月10日に指定された重要文化財北海道之上国勝山館跡出土品(921点)は、町内に展示可能な施設がないため、指定以来上ノ国町役場庁舎2階に収蔵されたまま公開活用できていない。一方、展示品以外の出土品やその他の文化財、昭和54年度(1979)以降の史跡整備に伴う勝山館跡の発掘調査や緊急発掘調査などの図面及び写真などは、昭和26年(1951)建築の木造校舎を改修した上之国館調査整備センターで保管をしている。当施設では、金属製品や木製品の保存処理を自前で実施し、恒久的な遺物の保存に努めているが、空調設備が備わっていないことに加え、建物が木造であるための火災の懸念、さらに築70年を経過して老朽化が進むことで適切な保管環境の確保が困難となっている。



写真 4-105 重要文化財旧笹浪家住宅 米蔵・文庫蔵



写真 4-106 上之国館調査整備センター (H8年度から使用)

表 4-5 町内の文化財保存活用施設

施設名	開館期間	役割	保管・保存	活用
上之国館調査整備センター	<ul style="list-style-type: none"> <li>平成8年度開設</li> <li>平日</li> <li>土日祝日休</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>発掘調査の整理作業</li> <li>出土品の保管</li> <li>調査研究</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>指定品以外の文化財の保管</li> <li>保存処理</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>民俗資料の展示</li> <li>史跡出土品の展示</li> <li>町内学校等の利用</li> </ul>
勝山館跡ガイダンス施設(史跡指定地内)	<ul style="list-style-type: none"> <li>平成17年度開設</li> <li>4月第4土曜日～11月第2日曜日</li> <li>冬期間閉鎖</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>南側エントランスの案内</li> <li>勝山館跡の案内周知</li> </ul>	—	<ul style="list-style-type: none"> <li>勝山館跡の遺構レプリカ展示</li> <li>勝山館跡の案内周知</li> <li>出土品展示</li> </ul>
旧笹浪家住宅附属米蔵・文庫蔵(史跡指定地内)	<ul style="list-style-type: none"> <li>平成16年度開設</li> <li>4月第4土曜日～11月第2日曜日</li> <li>冬期間閉鎖</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>北側エントランスの案内</li> <li>中世末～近世の歴史文化の案内周知</li> </ul>	—	<ul style="list-style-type: none"> <li>周辺文化財の案内周知</li> <li>中世末～近世の史跡関連文化財の展示</li> </ul>

このように現状では三館の情報を総合的に伝える施設がなく、三館を有機的に結びつけることができていない。そのため、三館からのアクセスが良好な場所に三館のネットワークの中心となる施設を設置することが、今後における三館の連携した保存活用を展開する上で不可欠となっている。

#### 4. 史跡指定地周辺の現状と課題

史跡が所在する地域は、上ノ国町の中心に位置しており、周辺には道の駅「上ノ国もんじゅ」、キャンプ場、花沢温泉・公園、町役場、小・中・高校などが立地し、町内外の人たちが多く集まる場所である。

史跡上之国館跡の価値を広く発信し、後世に伝えていくためには、史跡のことを知ってもらい、足を運んでもらう取組が重要であり、これらの周辺施設との連携は欠かせない。

しかし、「第4節1. 三館へのアクセスの現状と課題」でも述べたが、町の中心地や集客施設から史跡へ誘導するサインや情報発信は十分とは言えないため、拠点となる文化財施設の建設を含め、連携を深めていく手法を検討している。

平成29年度（2017）に策定した『上ノ国歴史文化基本構想』において、歴史文化資源を町民の「マイ文化財」と位置づけ、史跡周辺に点在する様々な歴史文化資源を関連文化財群「はじまりの地“神ノ国”」として、一体的な活用を図っている。

今後は、勝山館跡の整備活用のみでなく、三館で構成される史跡の特徴を活かし、三館の周遊ルートの整備や活用事業の中で、史跡周辺に点在する様々な分野・時代の関連文化財群、集客施設を効果的に取り込むことが重要である。

さらに、史跡をより地域に根付かせるとともに地域に残る様々な文化財の保存、三館の周遊促進や地域振興につなげていくことが求められている。



写真 4-107 花沢温泉



写真 4-108 道の駅「上ノ国もんじゅ」



写真 4-109 夷王山キャンプ場周辺

#### 5. 勝山館跡の調査の現状と課題

##### （1）検出遺構

勝山館跡は、主郭（館神八幡宮跡、客殿周辺）において建物遺構の検出が進んでいる一方で、主郭周辺の曲輪では遺構の確認が進んでおらず、館全体の構造及び場の性格などが不明確となっている。

特に、館神八幡宮跡は中世の神社遺構とする柱穴周辺に柱列が見られるなど、遺構配置について再検討が必要となっている。

主郭（客殿周辺）の掘立柱建物跡の変遷については、平成11～22年度（1999～2010）に上ノ国町史跡整備検討委員であった鈴木亘氏、宮本長二郎氏の指導の下で検討し、平成18年度（2006）には、上ノ国町教育委員会が刊行した『史跡上之国勝山館跡整備事業報告書』で鈴木亘委員によって前Ⅰ・Ⅰ～Ⅴ期の6期の建物変遷案を提示している。

竪穴建物跡は、掘立柱建物跡の柱穴に壊されている遺構が多いため、掘立柱建物跡より先行する遺構と位置付けているが、館の終末期の一括遺物を出土する竪穴建物跡もあり、掘立柱建物跡と併存する可能性についても検討すべき課題となっている。

その他、北海道内ではほとんどみられない中世の礎石建物跡を6棟検出しているものの、そのうち半数が夷王山墳墓群や荒神堂跡で確認しており、信仰に関わる遺構の可能性が高いものの、性格の検討ができていない。

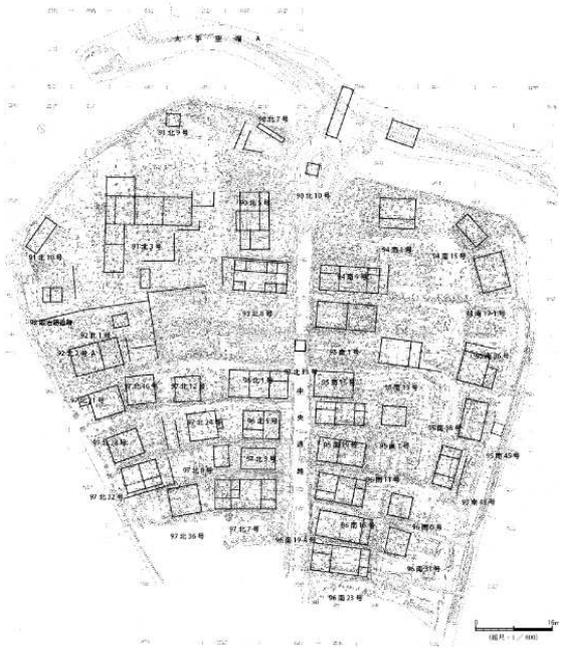


図 4-11 主郭（客殿周辺）のⅢ期の建物配置図

## (2) 出土遺物

勝山館跡は、陶磁器の年代観から瀬戸・美濃灰釉端反皿が最も多くなる 15 世紀末～16 世紀前葉に最盛期を迎えることが判明している。

しかしながら、出土遺物については、計量的な分析の成果が提示できていないことで、館が機能した約 130 年間の空間利用の変遷などが明確でない現状にある。

そのため、遺構出土の一括資料などの検討を行い、遺構の時期や性格を明らかにして勝山館跡の画期を示す作業などが必要となっている。

また、金属製品については本州などからの搬入品も多く散見されるため、各器種で型式学的な分類を行い、遺物の時代や産地について改めて検討をし、当時の流通や館内における活動を整理することも課題となっている。

さらに、勝山館跡ではアイヌ墓の発見から和人とアイヌの混住が判明しているが、その関係性やアイヌの活動実態については、不明な部分が多いため、道内の他地域の出土事例と比較検討を行い、勝山館跡のアイヌの位置付けや活動実態について明らかにすることも今後の課題となっている。



写真 4-110 焼失家屋とされる礎石・砂利敷の竪穴 59A 号建物跡



写真 4-111 勝山館跡出土骨角器